

(様式第9)

獨医大病庶庶発第38号
平成19年10月12日

厚生労働大臣 殿

学校法人 獨協学園
理事長 寺野

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規程に基づき、平成18年度の業務に関して報告いたします。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	86人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体型的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従事者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	551人	4.8人	555.8人	看護業務補助者	71人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	23人	0.4人	23.4人	理学療法士	8人	臨 床	臨床検査技師 75人
薬 剤 師	54人		54.0人	作業療法士	4人	検 査	衛生検査技師 0人
保 健 師	0人		0.0人	視能訓練士	4人		その他 9人
助 産 師	14人		14.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	2人
看 護 師	804人	30.1人	834.1人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	9人	5.9人	14.9人	栄 養 士	6人	その他の技術員	11人
歯 科 衛 生 士	4人		4.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	214人
管 理 栄 養 士	15人		15.0人	診療放射線技師	60人	そ の 他 の 職 員	69人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により、常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	1,018.3人	19.0人	1,037.3人
1日当たり平均外来患者数	2,217.2人	93.4人	2,310.6人
1日当たり平均調剤数	4,047.2剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時間現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を、記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を、記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供実績

1. 高度先進医療の承認の有無及び取扱患者数

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・人工活約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	
・経皮的レーザー椎間板切除術 (内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子物産P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	
・スキンファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	6人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	17人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	103人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	17人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	1人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	
・乳房漏存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	38人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input type="radio"/> 無	
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	5人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	

・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊柱骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・胎児尿路-羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input type="radio"/> 無	
・腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術	有・ <input type="radio"/> 無	
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療	有・ <input type="radio"/> 無	2人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・抗がん剤感受性試験（CD-DST法）	有・ <input type="radio"/> 無	
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	2人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	
・HLA抗原不一致ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・頸椎椎間板ヘルニアに対するYag-Laserによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	有・ <input type="radio"/> 無	
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・末梢血管細胞（CD34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	9人
・副甲状腺内活性化型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱患者数
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	7人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	

・顎間接症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	
・X線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	
・顎間接鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	
・顎間接脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	

先進医療の種類	承認	取扱患者数
高周波切除術を用いた子宮腺筋症核手術	有・ <input type="radio"/> 無	
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術 (PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	
凍結保存同種組織を用いた外科療法	有・ <input type="radio"/> 無	
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	16人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	7人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	
歯周組織再生誘導	有・ <input type="radio"/> 無	
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	17人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	
抹消肝細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	
超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/> 無	
眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/> 無	550人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	
X線CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には前年度の年間実患者数を記入すること。
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、別項「その他の高度医療」に記入すること。
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

その他の高度医療

医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	98人
当該医療技術の概要			
冠動脈の動脈硬化（石灰化、アテローム硬化、血栓の有無）などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要			
冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル（レスキュー、スロンバスター、パークサージ）にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	免疫吸着療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。			
医療技術名	腹水濃縮灌流療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
著明な腹水が認められる肝硬変などの症例において、血行動態が安定した状態で腹水を除去するために、採取した腹水をダイアライザーで濾過濃縮し静脈に還流する。			
医療技術名	経皮的心肺補助法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
経皮的に挿入したカテーテルを用いて遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖的回路の人工心肺装置にて心肺循環補助を行うもの。			
医療技術名	脳電図トポグラフィー	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
20channel脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療			
医療技術名	修正型電気痙攣療法	取扱患者数	450人
当該医療技術の概要			
難治性うつ病や治療抵抗性の統合失調症に対して筋弛緩剤により痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用い、頭部にパルス波を通電し、治療をおこなう。年間の施行件数は述べ450件程度である。			

医療技術名	自家遊離複合組織移植術	取扱患者数	35人
-------	-------------	-------	-----

外傷や手術などで欠損した組織を再建する手術のうち、他部位の組織を血管付きで採取し顕微鏡を用い血管を縫いつけた上で移植する手術。

医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	39人
-------	------------	-------	-----

当該医療技術の概要

顔面神経麻痺のある方に顔面の筋肉を腿や他の筋肉で吊り上げたり、左右のバランスを整えたり、神経の移植などして機能を回復させる手術。

(注) 当該医療機関において高度な治療と判断するものが他にあれば、平成18年4月1日から平成19年3月31日までの一年間の実績を記入すること

2. 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診断

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	163人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	0人
・多発性硬化症	94人	・ウェゲナー肉芽腫症	3人
・重症筋無力症	166人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	0人
・全身性エリテマトーデス	996人	・多系統萎縮症	3人
・スモン	5人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人
・再生不良性貧血	110人	・脳疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	323人	・広範脊柱管狭窄症	18人
・筋萎縮性側索硬化症	43人	・原発性胆汁性肝硬変	176人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	1人	・重症急性膵炎	18人
・特発性血小板減少性紫斑病	239人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・結節性動脈周囲炎	23人	・混合性結合組織病	76人
・潰瘍性大腸炎	370人	・原発性免疫不全症候群	9人
・大動脈炎症候群	23人	・特発性間質性肺炎	42人
・ピュルガー病	7人	・網膜色素変性症	72人
・天疱瘡	109人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	101人	・原発性肺高血圧症	60人
・クローン病	102人	・神経繊維腫症	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	2人
・悪性関節リウマチ	32人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	0人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	0人
・アミロイドーシス	21人	・ライムゾーム病（ファブリー[Fabry]病）含む	0人
・後縦靭帯骨化症	137人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

3. 病理・臨床検査部門

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に 1 回程度 (年間 12 回 開催)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 75例 剖検率 12.7%

※受託解剖は、解剖率から除く。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
「AED使用を必須とした心肺蘇生法」の地域住民への普及による心臓性心停止例の救命	菊地 研	内科学(心血管・肺)	300,000	①補委 文部科学省
急性心不全とその関連疾患に対するより効果的かつ効率的な治療等の確立に関する研究	菊地 研	内科学(心血管・肺)	500,000	①補委 厚生労働省
トレフォイル・ペプチドによる消化管疾患の予防・治療に関する基礎的検討	平石 秀幸	内科学(消化器)	1,700,000	①補委 日本学術振興会
胃潰瘍診療ガイドラインの適用と評価に関する研究	平石 秀幸	内科学(消化器)	600,000	①補委 厚生労働省
国内外における医療事故・医事紛争処理に関する法的研究	寺野 彰	内科学(消化器)	主任研究者一括計上	①補委 厚生労働省
転写因子による造血制御機構と白血病発症機構の解析	三谷 絹子	内科学(血液)	4,100,000	①補委 日本学術振興会
転座型白血病の分子機構と分子標的療法	三谷 絹子	内科学(血液)	9,300,000	①補委 文部科学省
発生工学的手法を用いた白血病関連転写因子の機能解析	三谷 絹子	内科学(血液)	1,000,000	①補委 日本学術振興会
AML I/Evi-1の発生工学的機能解析	三谷 絹子	内科学(血液)	1,600,000	①補委 厚生労働省
骨髄異形成症候群に対する画期的治療法に関する研究	三谷 絹子	内科学(血液)	24,000,000	①補委 厚生労働省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高密度CGHアレイを用いた新規白血病、リンパ腫治療薬の標的分子の探索	三谷 絹子	内科学(血液)	1,000,000	補委	厚生労働省
発生工学的手法を用いた転写因子Runx1の造血幹細胞発生における機能の解析	牧 和宏	内科学(血液)	1,100,000	補委	文部科学省
白血病関連転写因子TELのES細胞を用いた機能解析と新規結合蛋白の同定	江口真理子	内科学(血液)	1,500,000	補委	日本学術振興会
Runx1の標的遺伝子の網羅的スクリーニングおよび発生工学的機能解析	山形 哲也	内科学(血液)	1,500,000	補委	日本学術振興会
アドレノメデュリンの臨床応用を目指した研究-ゲノム・プロテオーム解析を含めて-	錦見 俊雄	内科学(循環器)	2,200,000	補委	日本学術振興会
ゲノム・プロテオームネットワーク解析に基づく循環器疾患の診断・治療法開発の基盤研究	錦見 俊雄	内科学(循環器)	1,900,000	補委	厚生労働省
基底核が早期情報処理障害にもたらす影響の病態解明	平田 幸一	内科学(神経)	900,000	補委	日本学術振興会
片頭痛に対する画期的治療法の開発に関する研究	平田 幸一	内科学(神経)	主任研究者一括計上	補委	厚生労働省
ギラン・バレー症候群由来のモノクローナル抗ガングリオシド抗体の作成と遺伝子解析	小鷹 昌明	内科学(神経)	6,300,000	補委	文部科学省
Fisher症候群モデル動物の樹立	船越 慶	内科学(神経)	1,500,000	補委	文部科学省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗ガングリオシド抗体産生機構の解明	結城 伸泰	内科学（神経）	9,700,000	補委	日本学術振興会
1次感覚ニューロンにおけるb系列ガングリオシドの機能的役割	結城 伸泰	内科学（神経）	2,600,000	補委	文部科学省
難治性ニューロパチーの病態に基づく新規治療法の開発	結城 伸泰	内科学（神経）	550,000	補委	厚生労働省
糖鎖の関連するニューロパチーの分子病態の解析	結城 伸泰	内科学（神経）	6,500,000	補委	厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	結城 伸泰	内科学（神経）	900,000	補委	厚生労働省
特定疾患の微生物学的原因究明に関する研究	結城 伸泰	内科学（神経）	2,400,000	補委	厚生労働省
睡眠障害医療における政策医療ネットワーク構築のための医療機関連携ガイドライン作成に関する研究	宮本 雅之	内科学（神経）	600,000	補委	厚生労働省
各種高脂血症治療薬の糖尿病性心血管病進展予防効果の総合的検討（若手医師・協力者活用に要する研究）	服部 良之	内科学（内分泌代謝）	4,140,000	補委	厚生労働省
各種高脂血症治療薬の糖尿病性心血管病進展予防効果の総合的検討	服部 良之	内科学（内分泌代謝）	200,000	補委	厚生労働省
PPAR作動薬の遺伝子標的の選択性に関する研究	門傳 剛	内科学（内分泌代謝）	3,000,000	補委	文部科学省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
SLE精神症状発症における抗モノアミン受容体・トランスポーター自己抗体の役割	前澤 玲華	内科学（呼吸器・アレルギー）	1,200,000	補委 日本学術振興会
上気道及び下気道アレルギーの臓器過敏性における臓器特異的免疫基盤の解明と早期診断法の開発	福田 健	内科学（呼吸器・アレルギー）	1,900,000	補委 厚生労働省
アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究	福田 健	内科学（呼吸器・アレルギー）	5,000,000	補委 厚生労働省
マウス喘息モデルを用いたCCケモカイン、TARC及びMDCのT細胞に対する分化増殖制御機構の解明	平田 博国	内科学（呼吸器・アレルギー）	1,500,000	補委 文部科学省
うつ病に対するオーダーメイド的薬物治療開発のためのゲノム薬理学的研究	室井 秀太	精神神経医学	1,100,000	補委 文部科学省
ゲノム薬理学的手法によるパニック障害治療における最適なパロキセチン血中濃度の探索	佐伯 吉規	精神神経医学	1,100,000	補委 文部科学省
パニック障害に対するオーダーメイド薬物治療計画立案のためのゲノム薬理学的研究	下田 和孝	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会
鉄イオン調節を用いた肝細胞癌に対する免疫療法に関する基礎的研究	窪田 敬一	第二外科学	1,200,000	補委 日本学術振興会
代謝研究のためのヒト肝細胞バリデーション	窪田 敬一	第二外科学	800,000	補委 厚生労働省
線維性皮膚疾患におけるI型コラーゲン遺伝子転写調節機構の解析	旗持 淳	皮膚科学	900,000	補委 日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ハプロタイプ解析を用いた日本におけるサイログロブリン遺伝子異常の由来について	菱沼 昭	臨床検査医学	1,800,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息に対するカンナビノイド作動薬の治療応用に関する基礎研究	吉原 重美	小児科学(内分泌)	900,000	補委	日本学術振興会
小児期メタボリック症候群の概念・病態・診断基準の確立及び効果的介入に関するコホート研究	有阪 治	小児科学(内分泌)	1,300,000	補委	厚生労働省
小児悪性腫瘍患児に対するインターネットを活用した院内学級活動支援の心理学的検討	福島啓太郎	小児科学(血液)	500,000	補委	日本学術振興会
新しく確立した乳幼児急性脳症における中枢性ベンゾジアゼピン受容体の脳内分布	今高 城治	小児科学(血液)	1,200,000	補委	文部科学省
小児白血病融合転写因子E2A-HLFの高カルシウム血症を誘導する下流遺伝子の同定	松永 貴之	小児科学(血液)	1,900,000	補委	文部科学省
難治性小児白血病におけるアポトーシス抑制蛋白SURVIVINの発現機構の解明	黒澤 秀光	小児科学(血液)	1,500,000	補委	日本学術振興会
重症心身障害児(者)の病因・病態解明、療育・療養、及び施設のありかたに関する研究	山内 秀雄	小児科学(血液)	1,000,000	補委	厚生労働省
脊椎症性脊髄症に対する減圧術が局所脊髄血流量に与える影響	萩野 雅宏	脳神経外科学	2,100,000	補委	日本学術振興会
遺伝子解析・神経発生関連遺伝子発現解析に基づいたグリオーマの発生学的分類の確立	植木 敬介	脳神経外科学	2,700,000	補委	日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
特定機能病院における脳外科手術の原価費用の精密定量と、症例集中がもたらす費用節減効果の検討	金 彪	脳神経外科学	1,672,000	①補委 厚生労働省
高圧酸素療法が靭帯損傷の治癒過程に与える効果に関する研究	玉井 和哉	整形外科	2,300,000	①補委 日本学術振興会
脊椎靭帯骨化症に関する調査研究	野原 裕	整形外科	主任研究者一括計上	①補委 厚生労働省
排尿筋収縮における尿路上皮よりの調節因子の同定とRho kinaseの役割	山西 友典	泌尿器科学	2,000,000	①補委 日本学術振興会
嗅粘膜分泌異常における活性好酸球の関与～嗅覚障害の発症と改善のメカニズムの解明	春名 真一	耳鼻咽喉科学	2,000,000	①補委 日本学術振興会
リアルタイムモニター飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	盛川 宏	耳鼻咽喉科学	2,500,000	①補委 厚生労働省
HBV侵淫地域である中国、アフリカにおける新しいHBV母子感染対策の臨床治験	稲葉 憲之	産科婦人科学	8,900,000	①補委 日本学術振興会
周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究	稲葉 憲之	産科婦人科学	78,000,000	①補委 厚生労働省
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	稲葉 憲之	産科婦人科学	1,300,000	①補委 厚生労働省
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に関する研究	深津 一雄	産科婦人科学	1,800,000	①補委 厚生労働省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頸動脈小体glomus細胞における低酸素性化学伝達の遺伝的個体差についての検討	山口 重樹	麻酔科学	500,000	補委	文部科学省
口腔扁平上皮癌においてリンパ節転移を制御する因子の同定	村本 創	口腔外科学	1,300,000	補委	文部科学省
口腔癌での腫瘍特異的キラーT細胞の誘導と腫瘍特異的抗体産生でのOX40Lの役割	加藤 洋史	口腔外科学	1,100,000	補委	文部科学省
RNAiによるHPV陽性口腔扁平上皮癌の遺伝子治療および遺伝子予防	今井 裕	口腔外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
バイオインフォマティクスに基づいた口腔癌個別化治療	今井 裕	口腔外科学	3,200,000	補委	文部科学省
P53機能解析からみた口腔癌の抗癌剤感受性の検索	品川 泰弘	口腔外科学	1,100,000	補委	文部科学省
変異P53癌原性機能獲得のメカニズム	川又 均	口腔外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
超高磁場MRSデータ解析法の開発と前立腺癌悪性度診断システムの確立	楫 靖	放射線医学	1,600,000	補委	日本学術振興会
皮膚三次元培養創傷治療モデルによるケロイドの解析	鈴木 康俊	形成外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
がん外科治療における形成再建手技の確立に関する研究	朝戸 裕貴	形成外科	1,200,000	補委	厚生労働省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新しい診療機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する研究	中村 哲也	光学医療センター 内視鏡部門	3,000,000	補 委	厚生労働省
ポジトロンCTのがん診断への応用と診断精度向上に関する研究	村上 康二	PETセンター	11,532,000	補 委	厚生労働省

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益公人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に質するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。
- 前年度：平成18年4月1日～平成19年3月31日

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respir Circ J 70: 1-7, 2006.	Effects of nocturnal oxygen therapy on outcome measures in patients with chronic heart failure and cheyne-stokes .	Sasayama S, Izumi T, Seino Y, Ueshima K, Asanoi H, Kaneko N, Nakamoto T, Harasawa H, Arikawa T	内科学(心血管・肺)
Drug Dev Res 67: 511-518, 852-861, 2006	Norepinephrine-Induced diastolic dysfunction with aortic valve opening under calcium-loading in rats. K201 improves norepinephrine-induced diastolic dysfunction with preserved ejection fraction.	Kaneko N, Matsuda R, Nakajima T, Shinozaki M, Ohtani N, Oda K, Hasumi H, Shimamoto K	内科学(心血管・肺)
山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指針 私はこう治療している. 医学書院, pp. 308-309, 2006	慢性肺性心. TODAY`S THERAPY2006.	中元隆明	内科学(心血管・肺)
治療学 40: 49-52, 2006.	西洋医学を補足する漢方薬の臨床応用とEBM 8 COPD と清肺湯.	加藤士郎, 小田和彦, 荷見尚志, 足立太一, 金子昇	内科学(心血管・肺)
産婦人科治療 92: 120-124, 2006.	慢性呼吸器疾患における漢方療法.	加藤士郎	内科学(心血管・肺)
基準値と異常値の間-その判定と対策. 328-331, 2006.	ナトリウム利尿ペプチド(ANP, BMP).	松田隆子, 家入蒼生夫	内科学(心血管・肺)
漢方と免疫・アレルギー 19: 26-33, 2006.	COPDの気道クリアランスに対する禁煙と清肺湯の併用効果.	加藤士郎, 小田和彦, 荷見尚志, 足立太一, 金子昇	内科学(心血管・肺)
漢方と免疫・アレルギー 20: 100-109, 2006.	漢方補剤によるCOPDの2次感染予防.	加藤士郎	内科学(心血管・肺)
Aliment Pharmacol Ther 24(Suppl. 4): 285-291, 2006.	Review article: regulation of TFF1 (pS2) expression in gastric epithelial cells.	Fujii Y, Shimada T, Koike T, Hosaka K, Tabei K, Namatame T, Tajima A, Yoneda M, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
Regul Pept 140: 81-87, 2006.	Regulation of TFF3 expression by homeodomain proteinCDX2. Regul Pept.	Shimada T, Koike T, Yamagata M, Yoneda M, Hiraishi H	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Gastroenterol Hepatol 4: 1502-1506, 2006.	Curcumin maintenance therapy for ulcerative colitis: randomized, multicenter, double-blind, placebo-controlled trial.	Iwaoka Y, Kanke K, Hiraishi H, Hirayama K, Arai H, Yoshii S, Uchijima M, Nagata T, Koide Y	内科学(消化器)
[Epub ahead of print] No abstract available. 2006.	Gastric ulcer penetrating into the heart. Endoscopy.	Fu KI, Fukui H, Tomiyama K, Kaji Y, Hiraishi H, Fujimori T	内科学(消化器)
Gastrointest Endosc 64: 40-44, 2006.	Magnifying pharmacoscopy: response of microvessels to epinephrine stimulation in differentiated early gastric cancers.	Nakamura T, Suzuki K, Masuyama H, Fujimori T, Hiraishi H, Terano A	内科学(消化器)
International Congress Series. 1287: 355-360, 2006.	Regulation of hepatic function by stress-related neuropeptides in the brain.	Yoneda M, Shimada T, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
FASEB J 20: 2058-2067, 2006.	Bactericidal/permeability-increasing protein's signaling pathways and its retinal trophic and anti-angiogenic effects.	Clermont A, Gao B, Saito H, Gundel R, White M, Feener EP, Aiello LP, King GL	内科学(消化器)
Hepato-Gastroenterology; in press.	Des-gamma-carboxy prothrombin (DCP) ratio is a useful prognostic tumor marker for single nodule hepatocellular carcinoma (HCC).	Murakami N, Tamano M, Yoneda M, Sugaya H, Hiraishi H	内科学(消化器)
後藤信哉編, 臨床現場におけるアスピリン使用の実際, 南江堂, pp.88-90, 2006.	NSAIDs潰瘍のハイリスク症例をいかに見出すか.	山形道子, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
渡邊聡明, 味岡洋一, 五十嵐正広, 田中信治編, 日本メディカルセンター, pp.128-134, 2006.	colitic cancer.	富永圭一, 藤井茂彦, 藤盛孝博	内科学(消化器)
渡邊聡明, 味岡洋一, 五十嵐正広, 田中信治編, Colitic Cancer, 日本メディカルセンター, pp.190-192, 2006.	18年間観察しえたdysplasiaの1例.	吉竹直人, 武川賢一郎, 菅家一成, 平石秀幸	内科学(消化器)
高橋信一編, 消化器疾患ガイドライン, 総合医学社, pp.116-119, 2006.	消化管ポリポース.	吉竹直人, 藤井茂彦, 藤盛孝博	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
潰瘍 33: 74-77,	NSAID潰瘍とPPI.	平石秀幸, 山形道子, 菅家一成, 渡辺秀考, 米田政志, 島田忠人	内科学(消化器)
治療学 40: 315, 2006.	アスピリン—改めて注目される古くて新しい薬—suggestion—COX-2阻害薬による消化性潰瘍発生の予防.	平石秀幸	内科学(消化器)
戸田剛太郎編, Annual Review消化器2006, 中外医学社, pp. 221-225, 2006.	消化管—胃・十二指腸疾患—慢性胃炎.	平石秀幸, 菅家一成, 渡辺秀考, 米田政志, 島田忠人, 寺野彰	内科学(消化器)
水島裕編, NSAIDsの使い方コツと落とし穴, 中山書店, pp. 142-143, 2006.	EBMに基づくNSAIDs潰瘍の予防と治療.	平石秀幸	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 163-169, 2006.	こだわりのESD—病理医からみたESDの再評価.	小野祐子, 富田茂樹, 市川一仁, 中村哲也, 平石秀幸, 黒田嘉和, 藤盛孝博	内科学(消化器)
Heart View 10: 1422-1425, 2006.	抗血小板療法—アテローム血栓症をいかに予防, 治療するか? アスピリン治療に伴う消化性潰瘍のリスクをどう考えるか?	島田忠人, 山形道子, 米田政志, 平石秀幸	内科学(消化器)
EBMジャーナル 7: 734-738, 2006.	Helicobacter pylori関連疾患と最新のエビデンス—疾患におけるH. pyloriの関与と除菌効果—胃・十二指腸以外の疾患—鉄欠乏性貧血.	島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
医学のあゆみ別冊, 消化器疾患Ver. 3, pp. 370-372, 2006.	消化器疾患 state of arts II. 肝・胆・膵/治療法をめぐる最近の進歩—NASHの治療(ARBとPPAR γ 作動薬を含む).	米田政志, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
自律神経 43: 224-227, 2006.	消化管と自律神経—中枢神経系による消化器の臓器相関—脳内神経ペプチドの関与.	米田政志, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
医学のあゆみ別冊, 消化器疾患Ver. 3, pp. 176-179, 2006.	消化器疾患State of arts消化管(食道・胃・腸)—病態生理の基礎的・臨床的研究—の進歩—消化管と肝胆膵との臓器関連—中枢性神経ペプチドによる制御.	米田政志, 平石秀幸	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
総合臨床 55: 1061-1066, 2006.	日本のプライマリ・ケアよくある健康問題100—疾患編—どう関わる? 悪性腫瘍15—食道癌.	渡辺秀考, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 1034-1036, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors—消化管—内視鏡的にポリペクトミーを行うときには抗血小板や抗凝固薬は中止すべきなのか?	渡辺秀考, 菅家一成, 森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
消化器の臨床 9: 531-534, 2006.	食道・胃接合部病変—Barrett食道—Barrett食道の病態と診断.	田嶋章弘, 島田忠人, 平石秀幸, 桑山肇	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 1517-1520, 2006.	緊急内視鏡早わかり 上部消化管—消化性潰瘍の出血に対する緊急内視鏡.	猪瀬亨代, 高木美幸, 西村奈美子, 平田嘉幸, 島田忠人, 平石秀幸, 桑山肇	内科学(消化器)
Modern Physician 26: 1108-1111, 2006.	内視鏡治療のUp-to-Date—小腸疾患の内視鏡治療—カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の診断学.	白川勝朗, 中村哲也, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
日本がん検診・診断学会誌 13:104-108, 2006.	カプセル内視鏡.	白川勝朗, 中村哲也, 中野道子, 菅家一成, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
Gastroenterol Endosc 48: 1146-1153, 2006.	小腸用カプセル内視鏡の検査手技—特に画像診断について.	白川勝朗, 中村哲也, 山岸秀嗣, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
今日の治療 13: S7-S60, 2006.	消化器疾患ガイドライン—最新の診療指針—消化管疾患—小腸腫瘍.	白川勝朗, 中村哲也, 平石秀幸	内科学(消化器)
日本レーザー医学会誌 27: 42-50, 2006.	進行癌, 大腸癌に対するPDTの挑戦.	中村哲也, 白川勝朗, 山岸秀嗣, 生沼健司, 平石秀幸, 増山仁徳, 寺野彰	内科学(消化器)
Nebio 23(10): 92-99, 2006.	上部消化器癌の内視鏡治療—胃癌—進行胃癌の内視鏡治療.	中村哲也, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Front Gastroenterol 11(1): 24-29, 2006.	誌上ディベーター小腸診断—カプセル内視鏡を推進する立場から.	中村哲也, 白川勝朗, 山岸秀嗣, 中野道子, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
消化器外科 29: 105-109, 2006.	小腸カプセル内視鏡の画像診断 カプセル内視鏡による小腸疾患の診断(腫瘍性病変).	下田渉, 白川勝朗, 中村哲也, 喜多宏人, 山本博徳, 砂川正勝, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 613-619, 1008-1010, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors— 診療手技・検査 健診でピロリ菌を検査することに意義があるのか? 消化管—舌が荒れていれば胃炎があるのか?	渡邊菜穂美, 平石秀幸, 森田賀津雄	内科学(消化器)
総合臨床 55: 1483-1487, 2006.	「健康診断をめぐって」—健康診断と疾病—健康診断における消化 管検査 の目的と方法.	渡邊菜穂美, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 1008-1010, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors— 消化管—舌が荒れていれば胃炎があるのか?	森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
からだの科学 246: 32-35, 2006.	気になる胃腸—急性胃炎とAGML.	森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
臨床消化器内科 21: 503- 508, 2006.	消化管病理組織像一度みておきたい典型例—胃のGIST.	星野美奈, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
臨床外科 61: 141-146, 2006.	診療に役立つ肉眼像と組織像の理解 —マクロからミクロ像を読む—胃良性疾患—非腫瘍性病変.	星野美奈, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
胃と腸 40: 1847-1853, 2005.	いわゆる側方発育型腫瘍の分子生物学的特徴.	藤井茂彦, 富永圭一, 吉竹直人, 星野美奈, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
藤盛孝博編, 大腸腺種・大腸癌—消化器 5, 最新医学社, pp. 63- 77, 2006.	潰瘍性大腸炎に合併する大腸腫瘍,	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 千葉勉, 藤盛孝博	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床消化器内科 21: 131-134, 2006.	炎症性腸疾患(2)―潰瘍性大腸炎の癌化.	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 藤盛孝博	内科学(消化器)
分子消化器病 3: 62-68, 2006.	潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の発生機序は通常の大腸腺腫と異なるのか.	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 藤盛孝博	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 417- 423, 2006.	消化管の“前癌病変”―慢性炎症から癌への連鎖、病理からみた前癌病変.	吉竹直人, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
臨床消化器内科 21: 1447- 1450, 2006.	消化管病理組織像一度みておきたい典型 例―胃生検組織診断分類における“Group III”.	山岸秀嗣, 市川一仁, 小野祐子, 富田茂樹, 中村哲也, 平石秀幸	内科学(消化器)
Biol Blood Marrow Transplant 12: 408-413, 2006.	A randomized controlled trial to compare once- versus twice-daily filgrastim for mobilization of peripheral blood stem cells from healthy donors.	Yoshinara S, Yuji K, Ando T, Kami M, Yamamoto E, Hiruma K, Mori S, Hirai H, Sakamaki H	内科学(血液)
Leukemia 20: 1458-1460, 2006.	Development of megkaryoblastic leukemia in Runx1-Ev1 knock-in chimaeric mouse.	Maki K, Yamagata T, Yamazaki I, Oda H Mitani K	内科学(血液)
Biochem Biophys Res Commun 347: 517-526, 2006.	TEL/ETV6 induces apoptosis in 32D cells through p53- dependent pathways.	Yamagata T, Maki K, Waga K, Mitani K	内科学(血液)
Cancer Genomics Proteom 3: 169-182, 2006.	Gene expression profiles of CD133-positive fractions predict the survival of individuals with acute myeloid leukemia.	Miyazaki Y, Usuki K, Teramura M, Mitani K, Kano Y, O'Neil MC, Urabe A, Tomonaga M, Ozawa K, Mano H	内科学(血液)
Am J Transplant 6: 3042- 3043, 2006.	A solid tumor of donor cell-origin After allogeneic peripheral blood stem cell transplantation.	Arai H, Aoyagi A, Kubota K, Kawamata H, Imai Y, Yamagata T, Mitani K	内科学(血液)
Leukemia 21: 190-192, 2006.	Chronic idiopathic myelofibrosis expressing a novel type of TEL-PDGFRB chimaera responded to imatinib mesylate therapy.	Tokita K, Maki K, Tadokoro J, Nakamura Y, Arai Y, Sasaki K, Eguchi-Ishimae M, Eguchi M, Mitani K	内科学(血液)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Hematol 84: 377-380, 2006.	A novel TEL/ETV6 binding protein KAP1 does not contribute to its transcription-repressive activity.	Nakamura Y, Maki K, Sasaki K, Kitabayashi I, Mitani K	内科学(血液)
日野原重明・井村裕夫編, 看護のための最新医学講座, 第2版, 第9巻, 中山書店, pp.110-114, 2006.	血液・造血管疾患—遺伝子検査.	三谷絹子	内科学(血液)
日本臨床腫瘍学会編, 新臨床腫瘍学—がん薬物療法専門医のために. 南江堂, pp.618-624, 2006.	骨髄異形成症候群.	三谷絹子	内科学(血液)
J Hum Hypertens 20: 557-559, 2006	Do increased plasma adrenomedullin levels in normotensive subjects precede hypertension?	Nishikimi T	内科学(循環器)
Hypertension 47: 671-679, 2006.	Cardioprotective mechanisms of eplerenone on cardiac performance and remodeling in failing rat hearts.	Kobayashi N, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Honda T, Tsubokou Y, Matsuoka H	内科学(循環器)
Hypertension 47: 265-270, 2006.	Activation of AMP-activated protein kinase enhances angiotensin ii-induced proliferation in cardiac fibroblasts.	Hattori Y, Akimoto K, Nishikimi T, Matsuoka H, Kasai K	内科学(循環器)
Mol Cell Biochem 284: 175-182, 2006.	Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.	Ishimitsu T, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Mise N, Omata M, Kimura K	内科学(循環器)
Hypertens Res 29: 253-260, 2006.	Effects of imidapril on left ventricular mass in chronic hemodialysis patients.	Matsumoto N, Ishimitsu T, Okamura A, Seta H, Takahashi M, Matsuoka H	内科学(循環器)
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 16: 78-81, 2006.	Comparison between intraperitoneal CO2 insufflation and abdominal wall lift on QT dispersion and rate-corrected QT dispersion during laparoscopic cholecystectomy.	Egawa H, Morita M, Yamaguchi S, Nagao M, Iwasaki T, Hamaguchi S, Kitajima T, Minami J	内科学(循環器)
J Cardiovasc Pharmacol 47: 629-635, 2006.	Nicorandil but not ISDN upregulates endothelial nitric oxide synthase expression, preventing left ventricular remodeling and degradation of cardiac function in Dahl salt-sensitive hypertensive rats with congestive heart failure.	Horinaka S, Kobayashi N, Yagi H, Mori Y, Matsuoka H	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Heart J 47: 409-420, 2006.	Relationship between markers of inflammation and brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese men.	Andoh N, Minami J, Ishimitsu T, Ohru M, Matsuoka H	内科学(循環器)
Hypertension 47: 1075-1083, 2006.	Long-term administration of Rho-kinase inhibitor ameliorates renal damage in malignant hypertensive rats.	Ishikawa Y, Nishikimi T, Akimoto K, Ishimura K, Ono H, Matsuoka H	内科学(循環器)
Clin Nephrol 65: 385-392, 2006.	Roles of TGF-beta1 and apoptosis in the progression of glomerulosclerosis in human IgA nephropathy.	Chihara Y, Ono H, Ishimitsu T, Ono Y, Ishikawa K, Rakugi H, Ogihara T, Matsuoka H	内科学(循環器)
Atherosclerosis 187: 92-100, 2006.	Critical role of bradykinin-eNOS and oxidative stress-LOX-1 pathway in cardiovascular remodeling under chronic angiotensin-converting enzyme inhibition.	Kobayashi N, Honda T, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Tsubokou Y, Matsuoka H	内科学(循環器)
Pharmacol Ther 111: 909-927, 2006.	Pathophysiologic and therapeutic implications of adrenomedullin in cardiovascular disorders.	Ishimitsu T, Ono H, Minami J, Matsuoka H	内科学(循環器)
Am J Hypertens 19: 1039-1048, 2006.	Chronic effect of combined treatment with omapatrilat and adrenomedullin on the progression of heart failure in rats.	Mori Y, Ishimura K, Ishikawa Y, Koshikawa S, Akimoto K, Minamino N, Kangawa K, Matsuoka H	内科学(循環器)
Am J Hypertens 19: 1233-1240, 2006.	Cardiorenal protective effects of year-long antihypertensive therapy with a Angiotensin-converting enzyme inhibitor or a calcium channel blocker in spontaneously hypertensive rats.	Ono H, Akashiba A, Takahashi T, Kameda T, Yoshii M, Minami J, Takahashi M, Ono H, Matsuoka H	内科学(循環器)
Nephrol Dial Transplant 21: 924-934, 2006.	Urinary excretions of lipocalin-type prostaglandin D2 synthase predict the development of proteinuria and renal injury in OLETF rats.	Kawabata Y, Numabe A, Negoro H, Taguchi R, Seiki K, Umemura S, Urade Y, Uehara Y	内科学(循環器)
Mol Cell Biochem 284: 175-182, 2006.	Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.	Hirata Y, Ishimitsu T, Numabe A, Takagi M, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Mise N, Omata M, Kimura K, Hagikura K,	内科学(循環器)
J Cardiovasc Pharmacol 48:184-190, 2006.	Stent-based delivery of antisense oligodeoxynucleotides targeted to the PDGF A-chain decreases in-stent restenosis of the coronary artery.	Kawano T, Takayama T, Honye J, Kobayashi N, Mugishima H, Saito S, Serie K	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Edited by Abba J. Kastin, Handbook of Biologically Active Peptides, Academic Press, pp.1217-1225, 2006.	Chapter 165. Natriuretic peptides in the cardiovascular system.	Minamino N, Morio H, Nishikimi T	内科学(循環器)
齋藤宗靖編, 循環器病の薬物療法, メジカルビュー社, pp.226-234, 2006.	降圧薬としてのACE阻害薬・AT1受容体拮抗薬.	松岡博昭	内科学(循環器)
金澤一郎, 北原光夫, 山口徹, 小俣政男編, 内科学, 医学書院, pp.839-843, 2006.	二次性高血圧症.	松岡博昭	内科学(循環器)
堀内正嗣編, The ARB-Angiotensin II Receptor Blocker, メジカルビュー社, pp.267-273, 2006.	ARBの薬理作用: 降圧作用.	松岡博昭	内科学(循環器)
猿田享男監修, 植田真一郎編集, ランダム化臨床試験を読み解く 一高血圧・冠動脈疾患領域, メディカルトリビューン, pp.133, 2006.	STONE: Doctor's Comment.	松岡博昭	内科学(循環器)
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 中外医学社, pp.269-272, 282-285, 306-310, 311-315, 316-319, 320-323, 324-327, 332-335, 2006.	ACTH. ADH. レニン. アンジオテンシン. アルドステロン. コルチゾール. コルチコステロン. 尿中17-OHCS. 尿中17-KSと分画. アンドロステロン・アンドロステンジオン.	沼部敦司, 家入蒼生夫	内科学(循環器)
山口徹, 堀正二編, 循環器疾患最新の治療2006-2007, 南江堂, pp.381-384, 2006.	白衣高血圧・早朝高血圧.	南順一, 松岡博昭	内科学(循環器)
Pharmacol Ther 111: 909-927, 2006.	Pathophysiologic and therapeutic implications of adrenomedullin in cardiovascular disorders.	Ishimitsu T, Ono H, Minami J, Matsuoka H	内科学(循環器)
J Pharmacol Sci 100: 22-28, 2006.	Molecular mechanisms and therapeutic strategies of chronic renal injury: renoprotective effect of rho-kinase inhibitor in hypertensive glomerulosclerosis.	Nishikimi T, Matsuoka H	内科学(循環器)
Cardiovasc Res 69: 318-328, 2006.	The role of natriuretic peptides in cardioprotection.	Nishikimi T, Maeda N, Matsuoka H	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内科 97: 164-168, 2006.	利尿薬は高血圧の第一選択薬か？—積極的立場から.	松岡博昭	内科学(循環器)
治療学 40: 82-83, 2006.	ACE阻害薬とアンジオテンシンII受容体拮抗薬の併用療法.	松岡博昭	内科学(循環器)
作業療法ジャーナル 40: 240, 2006.	高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
診断と治療 94: 437-442, 2006.	心疾患を伴う高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
最新医学 61: 771-778, 2006.	高血圧の診断・治療に関する最近の動向.	松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 379-383, 2006.	高齢者の降圧薬処方ノウハウ.	松岡博昭	内科学(循環器)
Medical Science Digest 32: 236-239, 2006.	高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
マグネシウム 25: 37-41, 2006.	高血圧・心臓病とマグネシウム.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64: 107-111, 2006.	循環生理活性物質. 概論: 循環生理活性物質と高血圧の病態.	松岡博昭	内科学(循環器)
心臓 38: 757-758, 2006.	Ca拮抗薬の使い方.	松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
治療学 40: 871-874, 2006.	高血圧とアルドステロン受容体拮抗薬.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号6): 536-541, 2006.	ガイドラインの変遷.	松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 1022-1026, 2006.	急激な血圧上昇.	松岡博昭	内科学(循環器)
Medicina 43: 1526-1528, 2006.	病態に応じた循環器薬の使い方—カルシウム拮抗薬: 高血圧における使い方.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1319-1322, 2006.	ARB/利尿薬合剤への期待—24時間安定した血圧管理を目指して.	松岡博昭, 南順一	内科学(循環器)
血圧 13: 27-32, 2006.	日米の高血圧診療ガイドラインにおける降圧利尿薬の位置づけ—ALLHATのインパクト.	石光俊彦	内科学(循環器)
動脈硬化予防 5: 78-80, 2006.	早朝高血圧.	石光俊彦	内科学(循環器)
クリニカルプラクティス 25: 1047-1053, 2006.	高血圧診療ガイドラインのエビデンス.	石光俊彦	内科学(循環器)
腎と透析 61: 800-806, 2006.	ACE遺伝子多型と血液透析患者の予後.	石光俊彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1101-1105, 2006.	アルコール制限.	石光俊彦, 南順一, 松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床 64(増刊号5): 278-283, 2006.	L-NAME投与SHR.	石光俊彦, 小野英彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 1305-1310, 2006.	21世紀の不整脈診療: 高血圧と不整脈.	堀中繁夫, 松岡博昭	内科学(循環器)
Mebio 23: 51-57, 2006.	合併症のある場合の降圧薬の使用法: 心不全を有する高血圧症例.	錦見俊雄	内科学(循環器)
日本薬理学会誌 128: 153-159, 2006.	高血圧性糸球体硬化進展におけるRho/Rho-kinase系の役割—Rho-kinase阻害薬の糸球体保護効果とその分子機序.	錦見俊雄	内科学(循環器)
血管 29: 37-46, 2006.	循環生理活性物質の血圧調節に関する分子機序と病態生理的意義.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
脈管学 46: 667-673, 2006.	高血圧性糸球体硬化におけるRho-kinase阻害薬の腎保護効果とその作用機序.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
老年医学 44: 1675-1678, 2006.	高齢者における二次予防試験. 高脂血症への介入による脳血管障害の再発予防.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
血管 29: 113-124, 2006.	心血管疾患におけるNitric Oxideの病態生理学的意義.	小林直彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号5): 303-310, 2006.	Dahl心不全モデルラット.	小林直彦, 錦見俊雄	内科学(循環器)
Medicina 43(増刊号6): 80-82, 2006.	低血圧症.	南順一, 阿部力, 松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
循環Plus 6: 7-9, 2006.	論議の的とされる降圧薬の作用～降圧か臓器保護か.	南順一	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号6): 247-253, 2006.	降圧薬の処方動向.	南順一, 石光俊彦, 岩瀬利康, 越川千秋	内科学(循環器)
血圧 13: 142-143, 2006.	Information Up-to Date: 脳卒中によるARBの二次予防—MOSES.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 238-239, 2006.	Information Up-to Date: 高蛋白食、単価不飽和脂肪食はDASH食の降圧効果を増強する.	松岡博昭	内科学(循環器)
Pharma Medica 24: 59-66, 2006.	REAL VALUE Expert Meeting 2005: VALUE Studyの意義.	渡辺毅, 岩本俊彦, 片山泰朗, 鈴木則宏, 平田幸一, 池田宇一, 福田恵一, 山崎力, 石橋俊, 寺内康夫, 山田信博	内科学(循環器)
暮しと健康 61: 88, 2006.	暮しと健康相談室: 下の血圧(拡張期血圧)が高いがどんなリスクがあるか.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本医事新報 4297: 91- 92, 2006.	質疑応答Q&A: 高血圧患者の診察前後の血圧値.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1038-1039, 2006.	Information Up-to Date: 収縮期血圧と脈圧—虚血性心疾患予知.	松岡博昭	内科学(循環器)
Pharma Medica 24: 100-102, 2006.	Expert Meeting 2006: 脳卒中中のリスク管理の問題点: 高血圧の視点から.	松岡博昭	内科学(循環器)
内科 98: 493-505, 2006.	降圧薬の選択—最近の進歩.	平田恭信, 久代登志男, 林晃一, 石光俊彦	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
血圧 13: 828-829, 2006.	Information Up-To-Date: 血清尿酸値と微量アルブミン尿.	石光俊彦	内科学(循環器)
日本医事新報 4286: 91-92, 2006.	質疑応答—外来血圧と家庭血圧の乖離.	石光俊彦	内科学(循環器)
血圧 13: 464-465, 2006.	Information Up-To-Date: 高血圧リスクとしての高脂血症.	石光俊彦	内科学(循環器)
内科 97: 713-716, 2006.	診断力をみがく—イメージトレーニング—口腔所見—心電図.	石光俊彦	内科学(循環器)
Neurology 67: 2236-2238, 2006.	Reduced cardiac 123I-MIBG scintigraphy in idiopathic REM sleep behavior disorder.	Miyamoto T, Miyamoto M, Inoue Y, Usui Y, Suzuki K, Hirata K	内科学(神経)
Neuropsychobiology 53: 148-152, 2006.	Characteristics of poststroke depression in Japanese patients.	Kaji Y, Hirata K, Ebata A	内科学(神経)
Eur Neurol 55: 145-150, 2006.	Neuropsychological changes in patients with carotid atenosis after carotid endarterectomy.	Fukunaga S, Okada Y, Inoue T, Hattori F, Hirata K	内科学(神経)
Clin Neurophysiol 59(Suppl): 49-55, 2006.	The role of the basal ganglia and cerebellum in cognitive impairment: a study using event-related potentials.	Hirata K, Tanaka H, Zeng X-H, Hozumi A, Arai M	内科学(神経)
J Inaternal Soc Life Info Sci 24: 279-284, 2006.	The biological rhythm in cerebral infarction during the acute stage is associated with sleep disorder at the chronic stage.	Daimon Y, Takekawa H, Ebata A, Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Hirata K	内科学(神経)
J Infect Dis 193: 547-555, 2006.	Comprehensive analysis of bacterial risk factors for the velopment of Guillain-Barre syndrome after Campylobacter jejuni enteritis.	Koga M, Gilbert M, Takahashi M, Li J, Koike S, Hirata K, Yuki N	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci 243: 35-38, 2006.	Isolated abducens nerve palsy as a regional variant of Guillain-Barre syndrome.	Tatsumoto M, Odaka M, Hirata K, Yuki N	内科学(神経)
J Neurol Sci 246: 163-168, 2006.	Campylobacter coli enteritis and Guillain-Barre syndrome: no evidence of molecular mimicry and serological relationship.	Funakoshi K, Koga M, Takahashi M, Hirata K, Yuki N	内科学(神経)
J Neuroimmunol 177: 201-208, 2006.	Spectrum of neurological diseases associated with antibodies to minor gangliosides GM1b and GalNAc-GD1a.	Tatsumoto M, Koga M, Gilbert M, Odaka M, Hirata K, Kuwabara S, Yuki N	内科学(神経)
Neurology 67: 1837-1843, 2006.	Relationship of bacterial strains to clinical syndromes of Campylobacter-associated neuropathies.	Kimoto K, Koga M, Odaka M, Hirata K, Takahashi M, J. Li, Gilbert M, Yuki N	内科学(神経)
Clin Neurophysiol 117: 252-268, 2006.	Sources of cortical rhythms change as a function of cognitive impairment in pathological aging: a multicenter study.	Hirata K, Miniussi C, Moretti DV, Nobili F, Rodriguez G, Romani GL, Salinari S,	内科学(神経)
Hum Brain Mapp 27: 162-172, 2006.	Sources of cortical rhythms in adults during physiological aging: A multicentric EEG study.	Hirata K, Lanuzza B, Miniussi C, Mucci A, Nobili F, Rodriguez G, Luca Romani G,	内科学(神経)
Sleep 29: 1439-1443, 2006.	Narcolepsy without cataplexy: 2 subtypes based on CSF hypocretin-1/Orexin-A findings.	Kuroda K, Miyamoto M, Miyamoto T, Ikeda A, Shimizu T, Hishikawa Y, Shibasaki H	内科学(神経)
Pediatr Neurol 35: 277-279, 2006.	Anti-GT1a IgG antibodies in a child with severe Guillain-Barre syndrome.	Schessl J, Funakoshi K, Susuki K, Gold R, Korinthenberg R	内科学(神経)
J Biol Chem 281: 11480-11486, 2006.	Identification of a sialate O-acetyltransferase from Campylobacter jejuni: demonstration of direct transfer to the C-9 position of terminal α -2,8-linked sialic acid.	Endtz HP, Yuki N, Li J, Jarrell HC, Koga M, van Belkum A, Karwaski MF, Wakarchuk WW, Gilbert M	内科学(神経)
Muscle Nerve 33: 766-770, 2006.	Electrophysiological subtypes and prognosis of childhood Guillain-Barre syndrome in Japan.	Nagasawa K, Kuwabara S, Misawa S, Fujii K, Tanabe Y, Yuki N, Hattori T, Kobno Y	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本薬物脳波学会誌 8: 19-22, 2006.	事象関連電位・聴性中潜時反応をもちいた前頭葉機能1、特に遂行機能に対するNicotineの影響の検討.	平田幸一, 穂積昭則, 田中秀明, 結城つむぎ, 松田直人, 斉藤正子, 岩田佳代子	内科学(神経)
日本薬物脳波学会誌 8: 23-25, 2006.	事象関連電位によるSSRI/SNRIの治療効果の評価—post stroke depression (PSD)における検討.	加治芳明, 平田幸一, 穂積昭則	内科学(神経)
Geriat Med 44: 1731- 1735, 2006.	閉塞性睡眠時無呼吸症候群における気分障害の臨床像の検討.	加治芳明, 宮本雅之, 宮本智之, 平田幸一	内科学(神経)
日本薬物脳波学会誌 8: 39-41, 2006.	大脳基底核・小脳疾患の高次脳機能への影響—電気生理学の役割.	穂積昭則, 新井美緒, 田中秀明, 平田幸一	内科学(神経)
臨床脳波 48: 6-10, 2006.	塞型睡眠時無呼吸症候群の重症例における認知・情報処理機能のCPAP前後の経年的変化.	宮本雅之, 宮本智之, 西林百佳, 鈴木圭輔, 平田幸一	内科学(神経)
臨床脳波 48: 475-479, 2006.	パーキンソン病におけるレボドパ治療と中潜時脳幹反応との関連.	穂積昭則, 田中秀明, 平田幸一	内科学(神経)
自律神経 43: 254-259, 2006.	脳梗塞急性期における平均深部体温と慢性期昨日予後.	竹川英宏, 大門康寿, 鈴木圭輔, 西林百佳, 平田幸一	内科学(神経)
脳と神経 58: 477-481, 2006.	抗グングリオシド抗体検出キットの開発 Guillain-Barre症候群、Fisher症候群における臨床的有用性の検討.	秋山真弓, 古賀道明, 吉野英, 浜岡章, 野口保彦, 平田幸一, 結城伸泰	内科学(神経)
岩田誠, 鹿島晴雄編, 言語聴覚士のための基礎知識—臨床神経学・高次脳機能障害学, 医学書院, pp. 49-61, 2006.	補助検査法: 画像診断・筋電図検査.	平田幸一, 伊澤直樹	内科学(神経)
Brain & Mind 2006, MEDICAL VIEW, pp. 4-16, 2006.	日本人が直面する心と神経の病気—いまGPにとって何が必要か.	平田幸一, 河村嵩, 古賀良彦, 鈴木則宏, 坪井康次	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本疼痛学会, 医学書院, 2006.	慢性頭痛ガイドライン,	平田幸一	内科学(神経)
山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指針2006, 医学書院, pp. 644-645, 2006.	症候性てんかん.	平田幸一	内科学(神経)
江藤文夫編, 神経内科学テキスト, 改訂第2版, 南江堂, pp. 121-122, 122-124, 125-128, 2006.	筋生検・神経生検. 脳脊髄液検査. 自律神経機能検査.	久保仁, 辰元宗人, 平田幸一	内科学(神経)
立花直子編, 睡眠医学を学ぶためにー専門医の伝える実践睡眠医学, 永井書店, 2006.	MSLT/MWT 反復睡眠潜時検査(multiple sleep latency, MSLT), 覚醒維持検査(maintenance of wakefulness test, MWT).	宮本雅之	内科学(神経)
メディカルサイエンスインターナショナル, pp. 245-254, 2006.	第19章 集中管理が必要な重症筋無力症患者の治療.	国分則人 平田幸一	内科学(神経)
Brain & Mind 2006, MEDICAL VIEW, pp. 168-171, 2006.	血管性うつとその治療は?	加治芳明 平田幸一	内科学(神経)
小林祥泰, 水澤英洋編, 神経疾患の最新の治療 2006-2008, 南江堂, pp. 213-218, 2006.	Guillain-Barre症候群.	伊藤雅史 結城伸泰	内科学(神経)
J Int Soc Life Info Sci 24: 102-109, 2006.	Migraine.	Hirata K	内科学(神経)
Korean J Headache 7(suppl 1): 43-44, 2006.	Patients with Medication Overuse.	Hirata K	内科学(神経)
CNS & Neurol Disorders - Drug Targets 5: 391-400, 2006.	Ganglioside mimicry as a cause of Guillain-Barre syndrome.	Komagamine T, Yuki N	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Curr Opin Neurol 19: 451-457, 2006.	Bacterial infections in Guillain-Barre and Fisher syndromes.	Yuki N Koga M	内科学(神経)
日本医事新報 4274: 33- 36, 2006.	緊張型頭痛の診療—前編.	平田幸一	内科学(神経)
日本医事新報 4279: 49- 52, 2006.	緊張型頭痛の診療—後編.	平田幸一	内科学(神経)
Medicina 43: 1816-1819, 2006.	頭痛診療における問診の重要性と診療コミュニケーションツール— 頭痛の確定診断への最短コ ースは？	平田幸一	内科学(神経)
Clinical Practicce 25: 820-825, 2006.	問診の進め方と頭痛ダイアリーの使い方.	平田幸一, 岩波久威, 門脇太郎	内科学(神経)
自律神経 43: 173- 179, 180-186, 2006.	睡眠時無呼吸症候群. 睡眠に関連した自律神経活動の変化.	平田幸一, 大門康寿, 竹川英宏, 宮本雅之	内科学(神経)
睡眠医療 1: 106-107, 2006.	睡眠医学.	宮本雅之	内科学(神経)
Medical ASAHI pp. 76-77, 2006.	脳血管障害と睡眠時呼吸障害の関係.	宮本雅之	内科学(神経)
臨床脳波 48: 6-10, 2006.	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の重症例における認知・ 情報処理機能のCPAP前後の経年的変化.	宮本雅之, 宮本智之, 西林百佳, 鈴木圭輔, 平田幸一	内科学(神経)
精神科治療学 21: 619- 624, 2006.	睡眠時無呼吸症候群(SAS)と神経疾患—遂行機能への影響を中心 に.	宮本雅之, 平田幸一, 宮本智之	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
神経内科 64: 219-224, 2006.	睡眠と生体リズム.	宮本雅之, 平田幸一, 宮本智之	内科学(神経)
清水徹男編, 睡眠障害治療の新たなストラテジー—生活習慣病からみた不眠症治療の最前線. 先端医学社, 東京, pp.102-112, 2006.	睡眠障害と神経内科系疾患との関連性からみた治療の必要性を探る.	宮本雅之, 平田幸一, 宮本智之	内科学(神経)
治療学 40: 648-652, 2006.	睡眠時無呼吸症候群の関連疾患—脳・神経疾患.	宮本智之, 宮本雅之, 西林百佳	内科学(神経)
自律神経 43: 206-211, 2006.	レム睡眠行動障害(異常症)における脳幹機能異常の検出.	宮本智之, 宮本雅之, 平田幸一	内科学(神経)
Geriatric Medicine 44: 683-686, 2006.	認知症の外用薬療法.	田中秀明, 平田幸一	内科学(神経)
日本臨床 64: 87-90, 2006.	脳血管障害と脳神経化学.	竹川英宏, 大門康寿, 平田幸一	内科学(神経)
ペインクリニック 27: 413-421, 2006.	高齢者の頭痛—特に見逃してはならない疾患を中心に.	竹川英宏, 大門康寿, 平田幸一	内科学(神経)
痛みと臨床 6: 449-451, 2006.	痛みとアロマセラピー.	桜井邦彦, 平田幸一	内科学(神経)
日本臨床 64: 445-450, 2006.	脳卒中後のうつ状態.	桜井邦彦, 平田幸一	内科学(神経)
脳外科看護 4: 130-137, 2006.	脳卒中後のうつの病態と診断・治療.	桜井邦彦, 平田幸一	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mebio 24(2): 74-83, 2006.	脳血管障害による抑うつ状態.	桜井邦彦, 平田幸一	内科学(神経)
The Mt. Fuji Workshop on CVD 24: 67-70, 2006.	脳虚血の病態と診断 PET・SPECT 血管性認知機能障害に対する頸動脈内膜剥離術(CEA)の効果.	福永真哉, 井上亨, 岡田靖, 服部文忠, 平田幸一	内科学(神経)
内科 97: 816-822, 1272-1273, 1274-1275, 1276-1277, 2006.	Bickerstaff脳幹脳炎の診断と治療. Guillain-Barre症候群(GBS). 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー(CIDP). ニューロパチー.	小鷹昌明, 結城伸泰	内科学(神経)
柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田誠編, Annual Review 神経, 中外医学社, pp. 252-258, 2006.	糖鎖相同性による軸索型Guillain-Barre症候群の発症機序.	薄敬一郎, 結城伸泰	内科学(神経)
医学のあゆみ 216: 287-291, 2006.	Campylobacter jejuni腸炎とGuillain-Barre症候群: 分子相同性仮説の立証.	鯉淵桂, 結城伸泰	内科学(神経)
感染・炎症・免疫 36: 98-100, 2006.	ギラン・バレー症候群の病態と治療への展望.	岡本沙織, 結城伸泰	内科学(神経)
ブレインヘルス・ニュース 8: 1-3, 2006.	慢性頭痛を放置しない.	平田幸一	内科学(神経)
Pharma Medica 24: 59-66, 2006.	REAL VALUE Expert Meeting 2005 VALUE Studyの意義.	松岡博昭, 鈴木則宏, 平田幸一, 池田宇一, 福田恵一, 山崎力, 石橋俊, 寺内康夫, 山田信博	内科学(神経)
臨床神経 46: 245-253, 2006.	日本神経学会認定施設における卒後研修の実態.	篠原幸人, 平田幸一, 栗原照幸, 糸山泰人, 國本雅也	内科学(神経)
Medical Tribune pp. 54, 2006.	問診1 頭痛の問診を模擬診察で実演.	平田幸一	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pharma Medica 24: 94, 2006.	効果的な片頭痛治療へのアプローチ.	平田幸一	内科学(神経)
EBM in Migraine ファイザー製薬, 2006.	片頭痛とうつ病の併存—因果関係および予後についての検討.	平田幸一 (監修)	内科学(神経)
日本頭痛学会誌 33: 7-8, 2006.	慢性連日性頭痛 (Stephan D. Silberstein, Jefferson Headache Center, Thomas Jefferson University Hospital, PA, USA) .	平田幸一	内科学(神経)
日本医事新報 4310: 92-93, 2006.	質疑応答—片頭痛と視野狭窄.	平田幸一	内科学(神経)
文月会誌 1: 68-71, 2006.	ギラン・バレー症候群の発症機序: 分子相同性仮説の実証.	結城伸泰	内科学(神経)
Lancet 368: 1155-1163, 2006.	Primary prevention of cardiovascular disease with pravastatin in Japan(MEGA Study): a prospective randomised controlled trial.	Kitabatake A, Goto Y, Toyota T, Nakaya N, Nishimoto S, Muranaka M, Yamamoto A, Mizuno K, Ohashi Y	内科学(内分泌代謝)
J Clin Endocrinol Metab 91: 3100-3104, 2006.	Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in japan.	Harada S, Kitanaka S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Urano T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri	内科学(内分泌代謝)
Pteridines 17: 65-68, 2006.	Statin increases GTP cyclohydrolase 1 mRNA and 5,6,7,8-tetrahydrobiopterin in vascular endothelial cells.	Hattori Y, Nakanishi N	内科学(内分泌代謝)
Diabetes Care 29: 2328-2329, 2006.	A patient with extreme insulin resistance syndrome treated with Pioglitazone.	Hattori Y, Saitoh H, Namatame T, Hattori S, Kasai K	内科学(内分泌代謝)
J Cardiovasc Pharmacol 47: 609-613, 2006.	Aldosterone impairs vascular endothelial cell function.	Hashikabe Y, Suzuki K, Jojima T, Uchida K, Hattori Y	内科学(内分泌代謝)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension 47: 1183-1188, 2006.	Metformin inhibits cytokine-induced NF- κ B activation via AMPK activation in vascular endothelial cells.	Hattori Y, Suzuki K, Hattori S, Kasai K	内科学(内分泌代謝)
Diabetes Care 29: 139-141, 2006.	Globular adiponectin activates nuclear factor- κ B in vascular endothelial cells, which in turn induces expression of proinflammatory and adhesion molecule genes.	Hattori Y, Hattori S, Kasai K	内科学(内分泌代謝)
Hypertension 47: 265-270, 2006	Activation of AMP-activated protein kinase enhances angiotensin II-induced proliferation in cardiac fibroblasts.	Hattori Y, Akimoto K, Nishikimi T, Matsuoka H, Kasai K	内科学(内分泌代謝)
J Biol Chem 281: 295-302, 2006.	Cross-talk between thyroid hormone receptor and liver X receptor regulatory pathway is revealed in a thyroid hormone resistance mouse model.	Hashimoto K, Cohen RN, Yamada M, Markan KR, Monden T, Satoh T, Mori M, Wondisford FE	内科学(内分泌代謝)
Endocrinology 147: 377-388, 2006.	Isolation and characterization of a transcriptional cofactor and its novel isoform that bind the DNA-binding domain of peroxisome proliferators-activated receptor γ .	Tomaru T, Satoh T, Yoshino S, Ishizuka T, Hashimoto K, Monden T, Yamada M, Mori M	内科学(内分泌代謝)
Endocr J 53: 181-187, 2006.	Expression of thyroid hormone receptor isoforms downregulated by thyroid hormone in human medulloblastoma cells.	Monden T, Nakajima Y, Hashida T, Ishii S, Tomaru T, Shibusawa N, Hashimoto K, Satoh T, Yamada M, Mori M	内科学(内分泌代謝)
Endocrinology 147: 2591-2586, 2006.	Prolactin secretion in mice with thyrotropin-releasing hormone deficiency.	Yamada M, Shibusawa N, Ishii S, Horiguchi K, Umezawa R, Hashimoto K, Monden T, Satoh T, Hirata I	内科学(内分泌代謝)
Endocrinology 147: 4292-4302, 2006.	Mouse sterol response element binding protein-1c gene expression is negatively regulated by thyroid hormone.	Hashimoto K, Yamada M, Matsumoto S, Monden T, Satoh T, Mori M	内科学(内分泌代謝)
Horm Res 66: 236-239, 2006.	Correlation between serum osteoprotegerin and biomarkers of bone metabolism during anti-thyroid treatment in patients with Graves' disease.	Mochizuki Y, Banba N, Hattori Y, Monden T	内科学(内分泌代謝)
Nature 443: 709-712, 2006.	Identification of nesfatin-1 as a satiety molecule in the hypothalamus.	EGUCHI H, Yamamoto M, Imaki T, Hashimoto K, Tsuchiya T, Monden T, Horiguchi K, Yamada M, Mori M	内科学(内分泌代謝)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ホルモンと臨床 54: 953-956, 2006.	減量効果が肥満患者の血中肥満関連因子(PAI-1, レプチン)と高感度CRPに与える影響.	川越宣明, 加瀬浩之, 鈴木國弘, 伴場信之, 門傳剛, 服部良之, 笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
血管 29: 91-94, 2006.	アンギオテンシン(Ang) II 投与による酸化ストレスによって低アディポネクチン血症は惹起される.	鈴木國弘 服部良之 加瀬浩之 笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
日本臨床 63(別冊新領域別症候群シリーズ), 1: 70-72, 2006.	下垂体ホルモン単独欠損症および複合欠損症. TSH単独欠損症.	門傳剛 笠井貴久男 森昌朋	内科学(内分泌代謝)
日本臨床 63(別冊新領域別症候群シリーズ 1): 409-411, 2006.	内分泌症候群—その他の内分泌疾患を含めて—甲状腺機能低下症. 甲状腺機能低下症に伴うニューロパチー.	門傳剛 岩田千種 橋壁裕子 笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指針 2006, 医学書院, pp.553, 2006.	単純性甲状腺腫.	笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
Medical Tribune 39(44): 54, 2006.	ことばのカルテ: eNOS.	服部良之	内科学(内分泌代謝)
総合臨床 55: 2642-2647, 2006.	浮腫をみる—各疾患における浮腫の機序とアプローチ—甲状腺疾患.	松村美穂子 伴場信之 門傳剛 笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
日本臨床 63(別冊内分泌症候群3): 134-137, 2006.	糖代謝—インスリン抵抗性・耐糖能異常を伴う遺伝性(先天性)症候群 Werner症候群(解説).	鈴木國弘 服部良之 笠井貴久男	内科学(内分泌代謝)
Allergol Int 55: 395-402, 2006.	A prospective survey on safety of sustained-release theophylline in treatment of asthma and COPD	Makino S, Fukuda T, Miyamaoto T	内科学(呼吸器・アレルギー)
Allergol Int 55: 295-299, 2006.	Prospective survey on safety evaluation of injectable methylxanthines in Japan.	Makino S, Adachi M, Kihara N, Nakajima S, Nishima S, Fukuda T, Miyamoto T	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Respir Crit Care Med 174: 550-556, 2006	Gefitinib prevents bleomycin induced lung fibrosis in mice.	Ishii Y, Fujimoto S, Fukuda T	内科学(呼吸器・アレルギー)
J Allergy Clin Immunol 117: 1446-1454, 2006.	Selective downregulation of prostaglandin E2-related pathways by the TH2 cytokine IL-13.	Trudeau J, Hu H, Chibana K, Chu H W, Westcott Y, Wenzel S E	内科学(呼吸器・アレルギー)
Rhinology 44: 128-134, 2006.	Expression and localization of TRPV1 in human nasal mucosa.	Saeki N, Shirasaki H, Kikuchi M, Sakamoto T, Watanabe N, Himi T	内科学(呼吸器・アレルギー)
Neuroscience 141: 1533-1543. 2006.	Immunohistochemical co-localization of transient receptor potential vanilloid(TRPV)1 and sensory neuropeptides in the guinea-pig respiratory system.	Watanabe N, Horie S, Michael G J, Keir S, Spina D, Page C P, Priestley J V	内科学(呼吸器・アレルギー)
Dokkyo J Med Sci 33: 1-10, 2006.	CD4 ⁺ -central memory and effector memory T cells in patients with asthma.	Yamaguchi B, Hirata H, Honda K, Yukawa T, Arima M	内科学(呼吸器・アレルギー)
Dokkyo J Med Sci 33: 43-53, 2006.	Antigen challenge-induced expression of amphiregulin by mast cells increases goblet-cell hyperplasia in a mouse model of asthma.	Masuda H, Manaka T, Toda M, Sugiyama K, Sagara H	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー・免疫 13: 58-67, 2006 13: 1278-1287, 2006.	持続型成人喘息患者におけるベクロメタゾンHFA製剤(BDP-HFA)からブデソニド(BUD-DPI)へ変更した際の臨床効果の検討.	相良博典, 平田博国, 杉山公美弥, 眞塩一樹, 山田一成, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
Dokkyo J Med Sci 33: 95-104, 2006.	IgE産生に与える好酸球上CD40リガンドの役割	相良博典, 太田真弓, 増田浩之, 眞塩一樹, 笹木真, 笹木直人, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー・免疫 13: 88-97, 2006.	モルモット気道壁モデルにおけるロキシシロマイシンの効果	相良博典, 増田浩之, 岡田壮令, 笹木直人, 笹木真, 杉山公美弥, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
Dokkyo J Med Sci 33: 125-132, 2006.	培養ヒト気管支上皮細胞における各種サイトカイン刺激がTGF- β シグナルに及ぼす影響.	笹木直人, 太田真弓, 岡田壮令, 笹木真, 相良博典, 牧野荘平, 秋元一三	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
北村聖編集, 臨床病態学, ヌーヴェルヒロカワ, pp. 282-290, 2006.	アレルギー性疾患 1 気管支喘息.	福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
第4版, 医学書院, pp. 229-233, 2006.	結核性胸膜炎・結核.	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
工藤翔二編, 呼吸器診療のコツと落とし穴ーびまん性肺疾患・肺腫瘍, 中山書店, pp. 38-39, 2006.	肺癌骨転移診断における18FDG-PETの有用性と落とし穴.	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
Allergy Clin Immunol Int 18: 58-64, 2006.	Novel functions of two chemokines in allergic disease.	Arima M, Fukuda T	内科学(呼吸器・アレルギー)
内科 97: 271-275, 2006	吸入ステロイド薬以外の長期管理薬の使い方.	福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
山口徹, 北原光編, 今日の治療指針2006年版, 医学書院, pp. 577, 2006.	アレルギー疾患の治療の動向.	福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
日本医師会雑誌. 134: 2398-2399, 2006.	栃木県医師会の活動	福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギーの臨床 26: 398-403, 2006.	気管支喘息の最新の考え方ー成人喘息におけるアーリーインターベーションを考える(第27回埼玉喘息・アレルギー研究会)	福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
Q&Aでわかるアレルギー疾患 2: 151-152, 2006.	喘息病態のひけつー胸焼けと咳の関係は?	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー科 21: 627-632, 2006.	β 2刺激薬の正しい使い方.	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医学のあゆみ 218: 769-772, 2006.	N-アセチルシステインによる肺線維化の抑制.	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
呼吸器NEWS & VIEWS 29: 15-17, 2006.	日本呼吸器学会のガイドラインにみる治療戦略.	石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
Medico 37: 157-163, 2006.	ハチアレルギーの現状と対策.	相良博典, 平田博国	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー・免疫 13: 18-28, 2006.	I. 気管支喘息 2) 杯細胞過形成の分子機序.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
日本内科学会雑誌 95: 1475-1480, 2006.	IV. 治療のup date 6. 徐放性テオフィリン	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
Medico 37: 401-406, 2006.	長期管理の動向—徐放性テオフィリン薬の位置づけ.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
呼吸と循環 54: 227-234, 2006.	気管支喘息の炎症メカニズムとその制御.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー科 21: 582-589, 2006.	気道リモデリングの治療法.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー・免疫 13: 18-28, 2006.	杯細胞過形成の分子機序.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
アレルギー 55: 794-810, 2006.	サルメテロール/プロピオン酸フルチカゾン配合剤の是非.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The 13th Symposium of Asthma in Tokyo, pp.30-41, 2006.	気道炎症の視点からみた気管支喘息と鼻アレルギーの異同.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
International Review of Asthma. 8: 30-35, 2006.	第2回米国アレルギー・喘息・免疫学会聴講録.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
喘息 19: 78-84, 2006.	University of Southamptonでの生活と研究.	相良博典, 中川武正, 岡山吉道	内科学(呼吸器・アレルギー)
Mebio 23: 124-129, 2006.	治療を見据えてCOPDと喘息をどのように捉えるか.	相良博典, 永井厚志, 久米裕昭	内科学(呼吸器・アレルギー)
漢方医学 29: 252-263, 2006	呼吸器疾患ガイドラインと漢方.	相良博典, 栗山喬之, 巽浩一郎, 内山義之, 亀井淳三	内科学(呼吸器・アレルギー)
Hotline of Asthma and Respiratory disease Update 3: 5-6, 2006.	喘息治療最近の話題—慢性疾患の合併と喘息のQOL 地域住民を対象とした試験.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
Medical Tribune 7-8, 2006.	気管支喘息における併用療法.	相良博典	内科学(呼吸器・アレルギー)
臨床と研究 83: 1657-1662, 2006.	吸入ステロイド.	杉山公美弥, 福田健	内科学(呼吸器・アレルギー)
診断と治療 94: 578-582, 2006.	胸部単純レントゲン写真—読影から診断へ—気胸と胸水、横膈膜の所見見落としを減らす撮影法と読影.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)
呼吸器科 9: 337-343, 2006.	特集—急性呼吸不全への対応—急性呼吸不全の重症度判定から治療への手順.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medicina 43: 851-858, 1207-1214, 1602-1607, 2006.	目で見るトレーニング.	武政聡浩, 宮川比佐子, 瀧部孝則, 宮下真奈備 岸田堅, 南留美, 鈴木啓介, 小田口尚幸	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
ARDS 55: 2669-2674, 2006.	特集—浮腫を診る—各疾患における浮腫の機序とアプローチ.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
Medicina 43: 440-444, 2006.	アナフィラキシーショック.	平田博国, 林ゆめ子, 福田健	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
Q&Aでわかるアレルギー疾患 2: 86-89, 2006.	細胞について(5)—好中球.	知花和行, 福田健	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
呼吸 25: S29-S30, 2006.	ロイコトリエンC4合成酵素発現に対する炎症性サイトカイン の影響.	堂前真理子, 相良博典, 福田健, 上川雄一郎	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
アレルギー・免疫 13: 9- 10, 2006.	アレルギー疾患におけるリモデリング—序	福田健	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
日本化学療法学会雑誌 54: 453-464, 2006	全国多施設での院内肺炎の実態と初期治療におけるmeropenemの位 置づけ. (研究協力施設).	福田健	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
医学のあゆみ 753, 2006.	はじめに—新しい肺線維症治療法とその可能性.	石井芳樹	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
Medicina 43: 1016, 1019, 2080, 2084-2085, 2006.	目でみるトレーニング	熊野浩太郎	内科学 (呼吸器・ アレルギー)
日本医事新報 4273: 91- 92, 2006.	質疑応答—ハチ刺傷によるアナフィラキシーショック予測のための 検査.	平田博国, 林ゆめ子, 福田健	内科学 (呼吸器・ アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第10回Acute Lung Injury 研究会報告書, pp.7-9, 2006.	Caspase阻害によるTNF α 誘導性好中球細胞死の増強.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学(呼吸器・ アレルギー)
Ann N Y Acad Sci 1074: 125-134, 2006.	Longitudinal clinical course following pharmacological treatment of methamphetamine psychosis which persists after long-term abstinence.	Akiyama K	精神神経医学
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 30: 486-491, 2006.	The impact of CYP2D6 genotypes on the plasma concentration of paroxetine in Japanese psychiatric patients.	Ueda M, Hirokane G, Morita S, Okawa M, Watanabe T, Akiyama K, Shimoda K	精神神経医学
Neurosci Lett 411: 168- 173, 2006	Association study of putative promoter polymorphisms in the neuroplastin gene and schizophrenia.	Saito A, Fujikura-Ouchi Y, Kuramasu A, Shimoda K, Akiyama K, Matsuoka H, Ito C	精神神経医学
日本てんかん学会, てんかん学用語辞典, pp.14-15, 2006.	聴覚発作 (auditory seizure).	秋山一文	精神神経医学
上島国利編集, 睡眠障害診療のコツと落とし穴, 中山書店, pp.122-123, 2006.	睡眠覚醒リズム障害に対する高照度光療法.	青木治亮, 下田和孝, 大川匡子	精神神経医学
精神科薬物療法研究会編, 統合失調症の治療手順—薬 物療法のアルゴリズム, 改 訂版, 医学書院, pp.73-93, 2006.	抗精神病薬による遅発性錐体外路症状治療のアルゴリズム.	秋山一文, 小杉真一, 室井秀太, 下田和孝	精神神経医学
日本臨床精神神経薬理学会 編, 臨床精神薬理学テキス トブック, 星和書店, pp.99-109, 2006.	薬物有害反応.	渡邊崇, 下田和孝	精神神経医学
山口徹総編集, 今日の治療指針2007—私は こうして治療している 医学書院, pp.688-699, 2006.	薬剤による精神障害	佐伯吉規	精神神経医学
精神医学 48: 594-596, 2006.	巻頭言. 医療安全雑感.	秋山一文	精神神経医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床精神薬理 9: 389-395, 2006.	統合失調症の認知機能—QOL～非定型抗精神病薬が果たす役割とは.	佐伯吉規, 仲谷誠, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 851-861, 2006.	新規抗精神病薬へのスイッチング-遅発性運動障害の治療の視点から.	秋山一文, 室井秀太, 佐伯吉規, 齋藤淳, 小杉真一, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 57-58, 2006.	せん妄の治療に、ベンゾジアゼピン系薬物は有効か?	上田幹人, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 245-246, 2006.	パーキンソン病/症候群治療薬で、幻覚・妄想、せん妄などの精神神経系副作用が出現しにくいものはどれか?	小杉真一, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 442-444, 2006.	双極性障害のうつ病相に使用しても躁転の可能性が低い抗うつ薬は?	室井秀太, 森田幸代, 下田和孝:	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 631-632, 631-632, 2006.	急性腎不全となり血液透析の導入が必要となった患者が、精神運動興奮・被害妄想を伴ったせん妄状態を呈したため、鎮静が必要となった。どのような薬物が推奨されるか?	渡邊崇, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 907-908, 2006.	66歳女性、子宮癌のため手術予定であるが、躁状態を呈している。気分安定薬の選択は?	上田幹人, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 1185-1187, 2006.	妊娠8ヶ月の妊婦。境界性人格障害にて外来通院中の患者。フルニトラゼパム2mg、トリアゾラム0.25mgを眠前投与している。出産にむけて中止あるいは変更した方がよいか?	佐伯吉規, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 1365-1367, 2006.	双極性障害の26歳の女性、Lithium600mg/日投与で維持療法を行っていたが、妊娠が判明した。妊娠中の薬物療法はどのように行うべきか?	渡邊崇, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 1577-1578, 2006.	不眠の患者に睡眠剤を投与する場合、深睡眠が得られやすい睡眠剤はどれか?	上田幹人, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床精神薬理 9: 1819-1820, 2006.	Restless legs syndromeの診断とその治療について.	室井宏文, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 2067-2068, 2006.	Tourette Disorderに対して新規抗精神病薬は有効か?	渡邊崇, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 2271-2272, 2006.	肺癌のためgefitinib内服中であるが、うつ状態となった。抗うつ薬を投与したいので、gefitinibと抗うつ薬との薬物相互作用について知りたい。	森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 9: 2497-2499, 2006.	癌性疼痛に対する鎮痛補助薬として、三環系抗うつ薬、SSRI、SNRIのうち第一選択薬となるのは?	渡邊崇, 森田幸代, 下田和孝	精神神経医学
最新精神医学 11: 369-372, 2006.	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)によるパニック障害の治療。	渡邊崇, 下田和孝	精神神経医学
臨床薬理 37: 259-263, 2006.	新しい抗うつ薬の臨床適応。	室井秀太, 下田和孝	精神神経医学
臨床薬理 37:255-258, 2006	新しい抗うつ薬の薬理作用の特徴。	上田幹人, 下田和孝	精神神経医学
臨床精神医学 35: 1663-1666, 2006.	特集—ベンゾジアゼピン系薬物の功罪. 6. ベンゾジアゼピンの奇異反応。	上田幹人, 下田和孝	精神神経医学
Br J Dermatol 154: 1013-1016, 2006.	A case of cutaneous leiomyosarcoma with overexpression of KIT.	Horie M, Hatamochi A, Yamazaki S, Izumi M, Mukai K	皮膚科学
J Dermatol. 33: 331-337, 2006.	Detection of mucosal human papilloma virus DNA in bowenoid papulosis, Bowen's disease and squamous cell carcinoma of the skin.	Hama N, Ohtsuka T, Yamazaki S	皮膚科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol 33: 249-251, 2006.	Syringocystadenoma papilliferum associated with apocrine poroma.	Suzuki T, Ikeda H, Hamasaki Y, Hatamochi A, Yamazaki S	皮膚科学
J Dermatol 33: 71-72, 2006.	A case of confluent and reticulated papillomatosis that successfully responded to roxithromycin.	Ito S, Hatamochi A, Yamazaki S	皮膚科学
Dermatology 212: 194-197, 2006.	Novel mutation in ATP2C1 gene in a Japanese patient with Hailey-Hailey disease.	Ohtsuka T, Okita H, Hama N, Yamazaki S	皮膚科学
Int J Dermatol 45: 86-87, 2006	Prevalence of human cytomegalovirus DNA in scleroderma skin tissue.	Ohtsuka T, Yamazaki S	皮膚科学
日本臨床皮膚科医会雑誌 23: 100-104, 2006.	当科における難治性円形脱毛症に対するsquaric acid dibutylester (SADBE)外用療法.	鈴木弘美, 旗持淳, 伊藤幸恵, 彭志中, 橋本道雄, 濱崎洋一郎, 山崎雙次	皮膚科学
瀧川雅浩他編, 皮膚疾患最新の治療, 南江堂, pp.76-77, 2006.	全身性強皮症.	旗持淳	皮膚科学
片山一朗他編, 皮膚科学, 文光堂, pp.435-438, 438-445, 445-446, 446-454, 454-455, 2006.	真皮結合組織疾患へのアプローチ. 先天性結合組織代謝異常症. 形成異常症. 皮膚萎縮症. 穿孔性皮膚症.	旗持淳	皮膚科学
西岡清編, 皮膚科診療のコツと落とし穴, 中山書店, pp.67-69, 2006.	円形脱毛症に対するSADBE外用療法のコツ.	旗持淳	皮膚科学
片山一朗他編, 皮膚科学, 文光堂, pp.425-427, 27-432, 432-434, 2006.	類脂質蛋白. 核酸. 電解質. ビタミン.	濱崎洋一郎	皮膚科学
西岡清編, 皮膚科診療のコツと落とし穴, 中山書店, pp.123, 147, 2006.	うっ滞性脂肪織炎(stasis panniculitis)に対するステロイド少量内服療法. 脂漏性角化症に対する液体窒素療法.	山崎雙次	皮膚科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastrointest Endosc 64: 1036, 2006.	Magnifying colonoscopy or "ultrahigh" magnifying colonoscopy	Fu K, Kaji Y, Fujimori T	放射線医学
Gastroenterology 131: 1361, 2006.	Adenoma or carcinoma: an important but difficult distinction.	Fu K, Kaji Y, Fukui H, Fujimori T	放射線医学
Endoscopy 38: E95, 2006.	A newly developed bipolar-current needle-knife for endoscopic submucosal dissection of large colorectal tumors.	Sano Y, Saito Y, Doi T, Hanafusa M, Fujii S, Fujimori T, Ohtsu A	放射線医学
Endoscopy 38: 428, 2006.	Iatrogenic perforation at therapeutic colonoscopy: should the endoscopist attempt closure using endoclips or transfer immediately to surgery?	Taku K, Sano Y, Fu K, Saito Y	放射線医学
Endoscopy 38: 949, 2006.	Is a second ligation necessary in endoscopic submucosal resection of rectal carcinoid tumors?	Fu K, Mashimo Y, Matsuda T, Saito Y, Sano Y	放射線医学
Dis Colon Rectum 49: 1238-1239, 2006.	Is endoscopic ultrasonography necessary for depth evaluation of rectal carcinoid tumors (or=10 mm)?	Fu K, Mashimo Y, Matsuda T, S aito Y	放射線医学
World J Gastroenterol 12: 3082-3087, 2006.	Depressed-type (0-IIc) colorectal neoplasm in patients with family history of first-degree relatives with colorectal cancer: Across-sectional study.	Sano Y, Fu K, Machida A, Okuno T, Kuwamura H, Yoshino T, Mera K, Kato S, Ohtsu A, Yoshida S, Fujii T	放射線医学
World J Gastroenterol 12: 1416-1420, 2006.	Magnifying colonoscopy as a non-biopsy technique for differential diagnosis of non-neoplastic and neoplastic lesions.	Kato S, Fu K, Sano Y, Fujii T, Saito Y, Matsuda T, Koba I, Yoshida S, Fujimori T	放射線医学
Ed. by Gevenois P.A and De Vuyst. P, Springer, pp.177-193, 2006.	Silicosis in imaging of occupational and environmental disorders of the chest.	Arakawa H, Ooi CGC	放射線医学
兼松雅之編, 腹部画像診断の勘どころ。 メジカルビュー社, pp.150-159, 2006.	副腎・後腹膜: MRI撮像の考え方と診断学レビュー。	岡田吉隆	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
診断と治療社, pp.1-104, 2006.	小児を画像で診断するとき—小児科医に必要な画像検査の知識.	桑島成子	放射線医学
酒井文和編, 胸部画像診断のここが鑑別 のポイント, 羊土社, pp.90-91, 2006.	サイトメガロウイルス肺炎.	荒川浩明	放射線医学
酒井文和編, 克誠堂, pp.1-53, 95-106, 2006.	びまん性肺疾患(1)~(5), (8). 症例から学ぶ胸部画像診断.	荒川浩明	放射線医学
阿部恭子他編, 乳がん患者ケアガイド. 学習研究社, pp.40-44, 2006.	PET (陽電子放射断層撮影検査).	山崎英玲奈, 萩原信悟, 村上康二	放射線医学
Radiographics 26: 1431- 1448, 2006.	Developing an MR imaging strategy for diagnosis of ovarian masses.	Imaoka I, Wada A, Kaji Y, Hayashi T, Hayashi M, Matsuo M, Sugimura K	放射線医学
産科と婦人科 73: 84-88, 2006.	卒後20年生のスーパーローテイト. 15. 放射線科—診断.	岡田吉隆	放射線医学
小児科診療 68(Suppl): 406-414, 2006.	症状・所見からみた小児画像診断の進め方—腹部腫瘤.	河野達夫	放射線医学
臨床放射線 51: 927-932, 2006.	MRIによる限局性前立腺癌病期診断のコツと限界.	楢靖, 杉原良, 杉村和朗	放射線医学
胃と腸 41: 1167-1176, 2006.	転移を来した早期胃癌の特徴分子生物学的な立場から.	市川一仁, 福井広 一, 楢靖, 小野祐 子, 富田茂樹, 中野利香, 鹿嶽佳 紀, 傅光義, 杉村和朗, 藤盛孝博	放射線医学
日本磁気共鳴医学会誌 26: 230-241, 2006.	3T装置による前立腺MRI・MRS.	楢靖, 黒田輝, 杉原良, 杉村和朗	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinician 53: 121-125, 2006.	骨盤領域における最新MR.	楯靖	放射線医学
小児科診療 69: 77-85, 2006.	特集—胸部単純X線診断—肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸部の異常—いつCTを撮りますか？	桑島成子	放射線医学
新医療 33(2): 46-48, 2006.	病院システムと部門システムの連携がもたらす効率化.	塚本信宏	放射線医学
ネオネイタルケア 19: 76-80, 150-155, 269-273, 355-360, 467-472, 578-585, 680-686, 790-796, 890-896, 985-992, 1089-1096, 1194-1200, 2006	どこを見る？何がわかる？ 画像による新生児症例カンファレンス— 間質性肺気腫. 敗血症 (RDS mimicking sepsis). 総肺静脈還流異常. 先天性筋張ジストロフィー. 気縦隔に続した気腹. 深すぎる気管チューブに関連したサーファクタントの不均等注入. 先天性横隔膜ヘルニア. 腸管壁内気腫. PICC留に関連する心嚢液貯留. 気縦隔 (縦隔気腫). Dry Lung症候群. Dry Lung症候群. ポッター・シークエンス.	河野達夫, 奥起久子	放射線医学
小児科診療 69: 205-216, 2006.	腹部の単純X線診断—小腸、大腸—後天性疾患.	河野達夫	放射線医学
画像診断 26: 420-426, 2006.	Mosaic perfusion.	荒川浩明	放射線医学
コンセンサス癌治療 5: 148-153, 2006.	肝胆膵癌におけるPET診断の意義.	萩原信悟, 村上康二, 山崎英玲奈, 砂川正勝	放射線医学
消化器内視鏡 18: 259-264, 2006.	大腸sm癌に対する内視鏡診断と治療—日本と欧米の違いを読み解く.	傅光義, 藤盛孝博	放射線医学
消化器内視鏡 18: 274-280, 2006.	大腸sm癌の深達度診断—現状と将来の展望.	小林望, 斎藤豊, 佐野寧, 松田尚久, 傅光義, 藤井隆広, 浜本康夫, 平原美孝, 石川勉	放射線医学
産科と婦人科 73: 447-454, 2006.	特集—成育医療における胎児診療 4.胎児診断の動向 2) MRIによる胎児診断.	桑島成子	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
早期大腸癌 10: 319-328, 2006.	大腸large hyperplastic polyp大腸large hyperplastic polypと大腸癌の関連.	佐野寧, 矢野友規, 傳光義, 藤井隆広	放射線医学
消化器内視鏡 18: 505-516, 2006.	大腸腺腫の診断と治療方針.	伊藤弘明, 佐野寧, 傳光義, 金子和弘, 倉橋利徳, 小西一男, 山本泰漢, 片桐敦, 桑川陽祐, 久保祐太郎, 村元喬, 井淵道夫	放射線医学
日本医事新報 4293: 69-72, 2006.	小児胸部疾患の画像所見を読む ①気道異物.	桑島成子	放射線医学
成人病と生活習慣病 36: 749-754, 2006.	珪肺の画像診断.	荒川浩明	放射線医学
INNERVISION 21: 26-29, 2006.	核医学検査の実際とその役割—乳房温存療法に対するFDG-PETとシンチグラフィの有用性について.	山崎英玲奈, 萩原信悟, 村上康二, 林光弘, 橋本禎介	放射線医学
日本医事新報 4297: 53-56, 2006.	小児胸部疾患の画像所見を読む②正常胸腺.	桑島成子	放射線医学
日本医事新報 4302: 53-56, 2006.	小児胸部疾患の画像所見を読む③肺炎.	桑島成子	放射線医学
小児内科 38: 1837-1840, 2006.	自分でやってみたくなる超音波検査—悪性リンパ腫.	河野達夫	放射線医学
日本医事新報 4306: 53-56, 2006.	小児胸部疾患の画像所見を読む④繰り返す肺炎.	桑島成子	放射線医学
日本医事新報 4310: 53-56, 2006.	小児胸部疾患の画像所見を読む⑤縦隔腫瘍.	桑島成子	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胃と腸 41: 1793-1800, 2006.	大腸におけるnarrow band imaging (NBI) 観察の臨床意義について.	傅光義, 金潤哲, 池松弘朗, 小高雅人, 齋藤豊, 武藤学, 吉田茂昭	放射線医学
臨床放射線 51: 1710-1711, 2006.	FDG-PET.	上康二, 藤田昌紀, 山崎英玲奈, 伊藤友一, 渡辺理, 椿昌裕, 砂川正勝	放射線医学
J Hum Genet 51: 379-382, 2006.	A novel compound heterozygous mutation in the thyroglobulin gene resulting in congenital goitrous hypothyroidism with high serum triiodothyronine levels.	Takeda A, Sato U, Miki Y, Hishinuma A, Ieiri T, Igarashi T	臨床検査医学
J Clin Endocrinol Metab 91: 3100-3104, 2006.	Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan.	Kasai K, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri T	臨床検査医学
Endocrine J 53: 735-740, 2006.	Sporadic congenital hyperthyroidism due to a germline mutation in the thyrotropin receptor gene (Leu512Gln) in a Japanese patient.	Nishihara E, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Ohye H, Ito M, Kubota S, Amino N, Kuma K, Miyauchi A	臨床検査医学
感染症学雑誌 80: 39-45, 2006.	安全装置付き翼状針導入による針刺しに対する効果.	鈴木理恵, 木村哲, 新谷良澄, 田美保, 森澤雄司, 住捷子, 吉田敦, 野谷幸恵, 森屋恭爾, 小池和彦	臨床検査医学
日本小児科学会雑誌 110: 912-918, 2006.	小児期軽症クレチン症の成因に関する尿中ヨードの検討.	西山宗六, 請園なぎさ, 菱沼昭, 田尻淳一, 木脇弘二, 中村公俊, 中村俊郎	臨床検査医学
医学と薬学 56: 79-84, 2006.	全自動免疫測定装置AxSYMを用いたHIV p24抗原, HIV-1/2抗体同時検査試薬アキシムHIV Ag/Abコンボアッセイ・ダイナバックRの評価.	池田眞由美, 及川信次, 吉田敦, 家入蒼生夫	臨床検査医学
感染症学雑誌 80: 488-495, 2006.	Streptococcus dysgalactiae subsp. Equisimilisの遺伝子解析によるemm型別と経口抗菌薬感受性.	小林玲子, 山本芳尚, 奥住捷子, 吉田敦, 三澤慶樹, 安達桂子, 生方公子	臨床検査医学
ホルモンと臨床 54: 959-962, 2006.	広島県における遺伝子異常による先天性甲状腺機能低下症.	西村裕, 宮川真一郎, 神野和彦, 西美和, 鬼形和道, 菱沼昭	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医学と薬学 56: 743-751, 2006.	血中CA19-9測定試薬アーキテクトR・CA19-9TM XRの評価.	堀内裕次, 屋代剛典, 中尾美佐子, 池田真由美, 及川信次, 家入蒼生夫	臨床検査医学
浦山修著者代表, 臨床検査学講座, 臨床化学検査, 第2版, 医歯薬出版, pp. 291-320, 376-384, 2006.	第三章 化学分析法各論, 7. ホルモン. 第四章 臓器機能と病態, 4. 内分泌機能.	家入蒼生夫	臨床検査医学
医学生のための基礎臨床技能 (ICM) シリーズ, 第3巻, 北村聖編, 検査結果の読み方, 考え方, 微生物検査, メジカルビュー, pp. 220, 221, 222, 223, 224, 225, 235, 236, 237, 2006.	抗酸菌薬剤感受性試験. ナイアシンテスト. ツベルクリン反応. 抗ストレプトリジンO抗体. 尿素呼気試験 [13C-ウレアブレステスト]. マイコプラズマ類—寒冷凝集反応 [寒冷赤血球凝集反応]. サイトメガロウイルス抗体. エンドトキシン. β -D-グルカン [(1 \rightarrow 3)- β -D-グルカン].	吉田敦	臨床検査医学
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 外医学社, pp. 266-268, 269-272, 273-275, 276-278, 282-285, 306-310, 311-315, 316-319, 320-323, 328-331, 332-335	成長ホルモン (GH), IGF-1 (インスリン様成長因子-1, ソマトメジンC), IGFBP-3 (インスリン様成長因子結合蛋白3型), ACTH, LH・FSH, プロラクチン, ADH, レニン・アンジオテンシン・アルドステロン, コルチゾール・コルチコステロン, 尿中17-OHCS, 尿中17-KSと分画, アンドロステロン, アンドロステンジオン.	家入蒼生夫, 菱沼昭	臨床検査医学
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 中外医学社, pp. 324-327, 2006.	ナトリウム利尿ペプチド (ANP, BNP). ナトリウム利尿ペプチド (ANP, BNP).	松田隆子, 家入蒼生夫	臨床検査医学
猪狩淳, 中原和彦編集, 標準臨床検査医学, 第3版, 医学書院, pp. 109-117, 117-121, 2006.	II 検体検査—生化学検査, B. 甲状腺. C. 副甲状腺 (付 ビタミンD, カルシトニン).	家入蒼生夫, 菱沼昭	臨床検査医学
垂井清一郎, 門脇孝, 花房俊昭編, 最新糖尿病学—基礎と臨床, 朝倉書店, pp. 617-623, 2006.	感染症.	吉田敦, 木村哲, 家入蒼生夫	臨床検査医学
木村哲編, 医薬ジャーナル, pp. 212-219, 2006.	獨協医科大学病院での取り組み—わが病院での感染対策.	家入蒼生夫, 吉田敦, 奥住捷子	臨床検査医学
日本医師会雑誌 134: 1934-1938, 2006.	混合感染としての肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン.	吉田敦, 稲松孝思	臨床検査医学
Mebio 23(1): 47-55, 2006.	抗ウイルス薬治療のポイント—サイトローメガロウイルス感染症.	吉田敦	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胃と腸 41: 1793-1800, 2006.	大腸におけるnarrow band imaging (NBI)観察の臨床意義について.	佐野寧, 堀松高博, 片桐敦, 傅光義, 金潤哲, 池松弘朗, 小高雅人, 齋藤豊, 武藤学, 吉田茂昭	放射線医学
臨床放射線 51: 1710-1711, 2006.	FDG-PET.	萩原信悟, 上康二, 藤田昌紀, 山崎英玲奈, 伊藤友一, 渡辺理, 椿昌裕, 砂川正勝	放射線医学
J Hum Genet 51: 379-382, 2006.	A novel compound heterozygous mutation in the thyroglobulin gene resulting in congenital goitrous hypothyroidism with high serum triiodothyronine levels.	Kitanaka S, Takeda A, Sato U, Miki Y, Hishinuma A, Ieiri T, Igarashi T	臨床検査医学
J Clin Endocrinol Metab 91: 3100-3104, 2006.	Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan.	KASAI A, Kitahara S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri T	臨床検査医学
Endocrine J 53: 735-740, 2006.	Sporadic congenital hyperthyroidism due to a germline mutation in the thyrotropin receptor gene (Leu512Gln) in a Japanese patient.	Nishihara E, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Ohye H, Ito M, Kubota S, Amino N, Kuma K, Miyauchi A	臨床検査医学
感染症学雑誌 80: 39-45, 2006.	安全装置付き翼状針導入による針刺しに対する効果.	鈴木理恵, 木村哲, 新谷良澄, 田美保, 森澤雄司, 住捷子, 吉田敦, 野谷幸恵, 森屋恭爾, 小池和彦	臨床検査医学
日本小児科学会雑誌 110: 912-918, 2006.	小児期軽症クレチン症の成因に関する尿中ヨードの検討.	西山宗六, 請園なぎさ, 菱沼昭, 田尻淳一, 木脇弘二, 中村公俊, 中村俊郎	臨床検査医学
医学と薬学 56: 79-84, 2006.	全自動免疫測定装置AxSYMを用いたHIV p24抗原, HIV-1/2抗体同時検査試薬アキシムHIV Ag/Abコンポーアッセイ・ダイナバックRの評価.	池田真由美, 及川信次, 吉田敦, 家入蒼生夫	臨床検査医学
感染症学雑誌 80: 488-495, 2006.	Streptococcus dysgalactiae subsp. Equisimilisの遺伝子解析によるemm型別と経口抗菌薬感受性.	小林玲子, 山本芳尚, 奥住捷子, 吉田敦, 三澤慶樹, 安達柱子, 生方公子	臨床検査医学
ホルモンと臨床 54: 959-962, 2006.	広島県における遺伝子異常による先天性甲状腺機能低下症.	岡田寛, 小林正夫, 中田祐生, 西村裕, 宮川真一郎, 神野和彦, 西美和, 鬼形和道, 菱沼昭	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医学と薬学 56: 743-751, 2006.	血中CA19-9測定試薬アーキテクト・CA19-9TM XRの評価.	堀内裕次, 屋代剛典, 中尾美佐子, 池田真由美, 及川信次, 家入蒼生夫	臨床検査医学
浦山修著者代表, 臨床検査学講座, 臨床化学検査, 第2版, 医歯薬出版, pp. 291-320, 376-384, 2006.	第三章 化学分析法各論, 7. ホルモン. 第四章 臓器機能と病態, 4. 内分泌機能.	家入蒼生夫	臨床検査医学
医学生のための基礎臨床技能 (ICM) シリーズ, 第3巻, 北村聖編, 検査結果の読み方, 考え方. 微生物検査. メジカルビュー, pp. 220, 221, 222, 223, 224, 225, 235, 236, 237, 2006.	抗酸菌薬剤感受性試験. ナイアシンテスト. ツベルクリン反応. 抗ストレプトリジンO抗体. 尿素呼吸試験 [13C-ウレアブレステスト]. マイコプラズマ類-寒冷凝集反応 [寒冷赤血球凝集反応]. サイトメガロウイルス抗体. エンドトキシン. β -D-グルカン [(1 \rightarrow 3)- β -D-グルカン].	吉田敦	臨床検査医学
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 外医学社, pp. 266-268, 269-272, 273-275, 276-278, 282-285, 306-310, 311-315, 316-319, 320-323, 328-	成長ホルモン (GH), IGF-1 (インスリン様成長因子-1, ソマトメジンC), IGFBP-3 (インスリン様成長因子結合蛋白3型), ACTH, LH・FSH, プロラクチン, ADH, レニン・アンジオテンシン・アルドステロン, コルチゾール・コルチコステロン, 尿中17-OHCS, 尿中17-KSと分画. アンドロステロン, アンドロステンジオン.	家入蒼生夫, 菱沼昭	臨床検査医学
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 中外医学社, pp. 324-327, 2006.	ナトリウム利尿ペプチド (ANP, BNP). ナトリウム利尿ペプチド (ANP, BNP).	松田隆子, 家入蒼生夫	臨床検査医学
猪狩淳, 中原和彦編集, 標準臨床検査医学, 第3版, 医学書院, pp. 109-117, 117-121, 2006.	II 検体検査—生化学検査, B. 甲状腺, C. 副甲状腺 (付 ビタミンD, カルシトニン).	家入蒼生夫, 菱沼昭	臨床検査医学
垂井清一郎, 門脇孝, 花房俊昭編, 最新糖尿病学—基礎と臨床, 朝倉書店, pp. 617-623, 2006.	感染症.	吉田敦, 木村哲, 家入蒼生夫	臨床検査医学
木村哲編, 医薬ジャーナル, pp. 212-219, 2006.	獨協医科大学病院での取り組み—わが病院での感染対策.	家入蒼生夫, 吉田敦, 奥住捷子	臨床検査医学
日本医師会雑誌 134: 1934-1938, 2006.	混合感染としての肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン.	吉田敦, 稲松孝思	臨床検査医学
Mebio 23(1): 47-55, 2006.	抗ウイルス薬治療のポイント—サイトメガロウイルス感染症.	吉田敦	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床病理レビュー特集 134: 39-44, 2006.	新興・再興感染症と臨床微生物検査—臨床微生物学（感染症学）に関する基礎知識—認定臨床微生物検査技師への道しるべ第2章注目される感染症.	吉田敦, 家入蒼生夫	臨床検査医学
薬局 57(増刊号—病気と薬の説明ガイド2006), pp. 61-69, 2006.	インフルエンザ（成人）.	吉田敦	臨床検査医学
Medical Technology 34: 375-378, 2006.	サイログロブリン異常症, 甲状腺ペルオキシダーゼ異常症, 特集これだけは知りたい甲状腺疾患の臨床検査 6. 先天性甲状腺疾患の遺伝子検査. Medical Technology 34: 375-378, 2006.	菱沼昭	臨床検査医学
日本臨床（別冊）, 内分泌症候群, 第2版, pp. 360-362, 2006.	ヨード有機化障害.	菱沼昭, 深田修司, 西美和, 木脇弘二, 家入蒼生夫	臨床検査医学
日本臨床（別冊）, 内分泌症候群, 第2版, pp. 363-366, 2006.	サイログロブリン遺伝子異常症.	深田修司, 菱沼昭	臨床検査医学
日本臨床（別冊）, 内分泌症候群, 第2版, pp. 367-370, 539-542, 2006.	ヨードチロシン縮合障害. 異所性甲状腺.	家入蒼生夫	臨床検査医学
ホルモンと臨床 54: 711- 723, 2006.	サイログロブリン異常, 細胞内輸送障害, 癌化. 特集—甲状腺疾患の新しい考え方.	菱沼昭	臨床検査医学
日経メディカル, 466: 32-33, 2006.	劇症型溶連菌に“新種”基礎疾患のある高齢者では要注意	吉田敦, 西谷肇, 生方公子	臨床検査医学
薬局 57(増刊—病気と薬の 説明ガイド2006.) pp. 573-581, 2006.	インフルエンザ（成人）.	吉田敦	臨床検査医学
化学療法の領域 22: 1742- 1749, 2006.	獨協医科大学病院における注射用抗菌薬の 使用状況. 抗生物質の使用状況（18）. 化学療法の領域 22: 1742-1749, 2006.	萱沼保伯, 蘇原由貴, 星野浩一, 奥住捷子, 吉田敦, 越川千秋	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Technology 34: 895-896, 2006.	ホルモンの基準値.	家入蒼生夫	臨床検査医学
Clin Pediatr Endocrinol 15: 163-176, 2006.	Discrepancies between physician and parent perceptions of psychosocial problems of GHD children undergoing GH therapy in Japan.	Arisaka O, Koledova E, Kanazawa S, Koyama S, Shimura N	小児科学
Recent Adv Res Update 7: 249-257, 2006.	Peripheral blood CD25+CD4+T cells in childhood patients treated with allogeneic stem cell transplantation	Sugita K, Tsuboi T, Sato Y, Kurosawa H	小児科学
Pediatr Int 48: 265-267, 2006.	Stress barometer at diagnoses in children with school non-attendance.	Kano K, Arisaka O	小児科学
Pediatr Nephrol 21: 1211, 2006	Efficacy and safety of nasal desmopressin in the long-term treatment of primary nocturnal enuresis.	Kano K, Arisaka O	小児科学
Int Arch Allergy Immunol 141: 31-36, 2006.	A neuroactive steroid inhibits guinea-pig airway sensory nerves via Maxi-K ⁺ channels activation.	Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O	小児科学
Ann Allergy Asthma Immunol 96: 879-880, 2006.	The use of a patch formulation of tulobuterol, a long-acting β_2 -adrenoreceptor agonist, in the treatment of severe pediatric asthma.	Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Arisaka O	小児科学
Clin Exp Immunol 144: 212-216, 2006.	Association of epithelial damage and signs of neutrophil mobilization in the airways during acute exacerbations of pediatric asthma.	Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Linden A, Arisaka O	小児科学
Pharmacology 76: 157- 162, 2006.	Cannabinoid receptor agonists inhibit Ca ²⁺ influx to synaptosomes from rat brain.	Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O	小児科学
Lung 184: 63-72, 2006.	Effects of early intervention with inhaled sodium cromoglycate in childhood asthma.	Yoshihara S, Kanno N, Yamada Y, Ono M, Fukuda N, Numata M, Abe T, Arisaka O	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Neurol 21: 34:93-100, 2006.	Acute infantile encephalopathy predominantly affecting the frontal lobes.	Mori M, Imataka G, Yamagata T, Hashimoto T, Momoi MY, Eguchi M, Mizuguchi M	小児科学
Epilepsy Res 70: S263- 265, 2006.	Acute infantile encephalopathy predominantly affecting the frontal lobes (AIEF): a novel clinical category and its tentative diagnostic criteria.	Yamanouchi H, Mizuguchi M	小児科学
J Child Neurol 21: 236- 239, 2006.	Expression of the N-Methyl-D-Aspartate receptor subunit R1 in the developing human hippocampus.	Imataka G, Hirato J, Nakazato Y, Yamanouchi H	小児科学
J Hum Genet 51: 284-291, 2006.	An association study of asthma and related phenotypes with polymorphisms in negative regulator molecules of the TLR signaling pathway.	Enomoto T, Kishi F, Yoshihara S, Matsumoto K, Saito H, Suzuki Y, Nakamura Y, Tamari M	小児科学
Biochem Biophys Res Commun 344: 300-307, 2006.	Functional polymorphism in MMP-9 is associated with childhood atopic asthma.	Shirakawa T, Ebisawa M, Matsumoto K, Saito H, Suzuki Y, Nakamura Y, Tamari M	小児科学
Allergol Int 55: 77-83, 2006.	Association of the RIP2 gene with childhood asthma.	Ebisawa M, Yoshihara S, Enomoto T, Shirakawa T, Kishi F, Nakamura Y, Tamari M	小児科学
Neurology 66: 1304-9, 2006.	Diffusion MRI abnormalities after prolonged febrile seizures with encephalopathy. Neurology 66: 1304-9, 2006.	Fujimoto S, Kato M, Kawatani M, Sudo A, Ozawa H, Okanishi T, Ishitobi M, Maegaki Y, Koyasu Y	小児科学
小児科臨床 59: 137-141, 2006.	004/2005年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討.	加納健一, 砂川佐知子, 志村直人, 有阪治	小児科学
小児科臨床 59: 1595- 1598, 2006.	小児ステロイド依存性ネフローゼ症候群におけるシクロスポリンの食後投与と食前投与との比較.	加納健一, 西倉潔, 有阪治	小児科学
小児科臨床 59: 2351- 2355, 2006.	2005/2006年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討.	加納健一, 砂川佐知子, 志村直人, 有阪治	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児呼吸器疾患学会雑誌 17: 137-142, 2006.	クロモグリク酸ナトリウム吸入液等張製剤切り替えによる小児喘息児の肺機能への影響.	菅野訓子, 吉原重美, 福田典正, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治	小児科学
アレルギーの臨床 26: 54-58, 2006.	小児気管支喘息の肺機能推移におけるクロモグリク酸ナトリウム吸入早期治療効果.	菅野訓子, 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治, 野田雅行	小児科学
日本小児アレルギー学会誌 20: 109-118, 2006.	小児アレルギー疾患におけるアレルゲン感作の全国調査.	吉原重美, 河野陽一, 西牟田敏之, 十字文子, 相原雄幸, 縣裕篤, 伊藤浩明, 宇理須厚雄, 近藤直実, 眞弓光文,	小児科学
日本小児アレルギー学会誌 20: 505-512, 2006.	小児気管支喘息治療・管理に関する小児科医へのアンケート調査 2005.	南部光彦, 古庄巻史, 森川昭廣, 西間三馨, 吉原重美, 他29名	小児科学
脳と発達 38: 195-200, 2006.	小児リンパ性白血病治療における中枢神経合併症.	仲島大輔, 福島啓太郎, 山内秀雄	小児科学
脳と発達 38: 5-9, 2006.	新生児けいれんの病因と治療に関する研究—midazolamの有用性について. 脳と発達 38: 5-9, 2006.	河口修子, 今高城治, 鈴木宏, 山内秀雄	小児科学
Ed by Sohei Makino, Elsevier, Present status of prevalence and management of Chronic respiratory disease in Asia-Pacific, pp.79-81, 2006.	Childhood asthma.	Yoshihara S	小児科学
Ed by Sohei Makino, Present status of prevalence and management of chronic respiratory disease in Asia-Pacific, Elsevier, pp.19-27, 2006.	Chronic respiratory diseases in Japan.	Fukuchi Y, aida M, Kawashiro T, Keicho N, Kida K, Kohno Y, Ohta K, Okubo K, Fukuda T, Yoshihara S, Sagara H	小児科学
油井邦雄, 相良洋子編, 実践・女性精神医学—ライフサイクル・ホルモン・性差, 創造出版, pp.295-298, 2006.	脳の性差.	有阪治	小児科学
代田浩之編, 若年者冠動脈疾患の予防戦略, 中山書店, pp.378-381, 2006.	性、年齢による予防戦略—小児	有阪治 山崎弦 宮本健志	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
大関武彦, 古川漸他編, 今日の小児治療指針, 第14版, 医学書院, pp.182-183, 2006.	下垂体機能低下症.	有阪治	小児科学
五十嵐隆, 水口雅編集, 小児臨床検査, 文光堂, pp.110-114, 2006.	プロテインC, プロテインS.	杉田憲一	小児科学
五十嵐隆編, 小児臨床検査ガイド, 文光堂, pp.616-618, 2006.	テオフィリン.	吉原重美	小児科学
大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎編, 今日の小児治療指針, 第14 版, 医学書院, pp.235-237, 309, 2006.	乳児喘息. 特発性肺へモジデロシス.	吉原重美	小児科学
斉藤博久監修, 小児アレルギーシリーズ- 喘息, 診断と治療社, pp.13, 20-24, 193-194, 2006.	私の処方箋: 1歳・繰り返す喘鳴・病態を年長児と同様に考えて抗 炎症治療を施すべきか? 乳児喘息の治療と治療の考え方. 私の処方箋: 17歳・喘息患者が妊娠したときの投薬と注意点.	吉原重美	小児科学
第25回六甲カンファレン ス, ライフサイエンス社, pp.3-10, 2006.	I 乳幼児期一病態: 喘息の病態と治療からみた世代的 (年齢的) 特 徴.	吉原重美 山田裕美 阿部利夫 有阪治	小児科学
大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎編, 今日の小児治療指針, 第14 版, 医学書院, pp.507, 2006.	神経皮膚症候群.	山内秀雄	小児科学
加藤忠明監修, 新しい小児慢性特定疾患治 療研究事業に基づく小児慢 性疾患診療マニュアル, 診断と治療社, pp.447-448, 2006.	先天性赤血球異形成貧血.	福島啓太郎	小児科学
小児内科・小児外科編, 小児疾患の診断治療基準, 第3版 東京医学社, pp.462-463, 2006.	気胸, 縦隔腫瘍.	阿部利夫 吉原重美	小児科学
日本医事新報 4295: 57-63, 2006.	学術: 小児の多尿-尿崩症を中心に.	有阪治	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第3版, 中枢性尿崩症. 小児内科 38 (増刊) : 202-203, 2006.	小児疾患の診断治療基準.	有阪治	小児科学
日本臨床 (別冊内分泌症候群2) : 545-549, 2006.	先天性Leydig細胞低(無)形成症.	有阪治 小山さとみ	小児科学
小児内科 38: 1581-1586, 2006.	メタボリックシンドロームと周辺疾患—高脂血症と高尿酸血症.	有阪治 小嶋恵美 山崎弦	小児科学
小児看護 29: 1459-1465, 2006.	白血病治療の考え方—化学療法と造血幹細胞移植.	杉田憲一	小児科学
小児科臨床 59: 1015-1021, 2185-2192, 2006.	夜尿症における長期デスマプレシン投与有効性と安全性. 小児期ステロイド性骨粗鬆症の予防と治療に関する最近の考え方.	加納健一	小児科学
日本小児アレルギー学会雑誌 20: 205-209, 2006.	小児気管支喘息とタバコ煙.	吉原重美	小児科学
日本旅行医学会誌 4: 21- 24, 2006.	子供の喘息と旅行.	吉原重美	小児科学
小児科診療 69: 271-273, 1453-1460, 2006.	ウイルス感染に伴う喘鳴—小児の治療指針. 乳児のアレルギーと呼気性喘鳴.	吉原重美	小児科学
小児科 47: 1079-1084, 2006.	乳児喘息に対する薬物療法—急性発作時のポイント.	吉原重美	小児科学
医学と薬学 56: 377-384, 2006.	乳幼児の気管支喘息管理実態に関するアンケート調査—保護者を対象として.	吉原重美	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pharma Medica 24(Suppl): 29-34, 2006.	安全性一吸入ステロイド薬の成長への影響—乳幼児の喘息治療に対する新たな展望—ブデソニド吸入懸濁液.	吉原重美	小児科学
小児内科 38: 959-961, 2006.	抗ロイコトリエン拮抗薬により気道リモデリングは予防できるのか?	吉原重美	小児科学
アレルギーと神経ペプチド 2: 4-10, 2006.	カンナビノイド受容体を介した気道神経原性炎症の制御.	吉原重美	小児科学
クリニカルプラクティス 25: 884-889, 2006.	乳幼児気管支喘息治療における目指すべき治療目標.	吉原重美	小児科学
長野県小児科医会報 43: 11-19, 2006.	小児アレルギー疾患治療の最新トピックス.	吉原重美	小児科学
小児科臨床 59: 177-185, 2006.	テオフィリンの薬効・薬理と血中濃度、効果と有害作用の オーバービュー.	吉原重美, 有阪治	小児科学
Pediatric Allergy for Clinicians 2: 13-16, 2006.	乳児期の喘鳴をどうとらえ、診断するか?	吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治	小児科学
小児内科 38: 357-359, 2006.	HHV6、HHV7による脳症.	山内秀雄	小児科学
日本医事新報 4267: 109- 110, 2006.	小児の細気管支炎の診断・治療.	阿部利夫, 吉原重美	小児科学
小児内科 38: 1931-1934, 2006.	化学伝達物質遊離抑制薬およびヒスタミンH1拮抗薬、Th2サイトカ イン阻害薬のエビデンス.	阿部利夫, 吉原重美	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
喘息 19: 25-28, 2006.	喀痰検査による小児喘息管理の向上.	山田裕美, 吉原重美, 有阪治	小児科学
アレルギー・免疫 13: 85-90, 2006.	RSウイルス感染と喘息発症—Th1/Th2バランスの観点から.	山田裕美, 吉原重美, 有阪治	小児科学
喘息 19: 37-40, 2006.	乳児(2歳未満)喘息急性発作の治療—JPGL2005を踏まえてどのように対応すべきか?	山田裕美, 吉原重美	小児科学
小児科 47: 219-222, 2006.	突発性発疹関連脳症.	坪井龍生, 山内秀雄	小児科学
チャイルドヘルス 9: 26-28, 2006.	小児の花粉症とぜんそくとの関連性.	福田啓伸, 吉原重美	小児科学
Long Life No.3, 2006, 12.	Opening Review—小児医療を守れ!	有阪治	小児科学
Medical Tribune 39: 26, 2006.	小児領域のLABA+ICSの有用性.	吉原重美	小児科学
Air 5: 4-5, 2006.	小児喘息のearly interventionの治療戦略は?	吉原重美	小児科学
Brain Dev 28: 614-615, 2006.	Campbell DeJong' s the neurologic examination, sixth ed., Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2005, 70.	Yamanouchi H, William W	小児科学
J Pediatr Surg 41: 1566-1572, 2006.	Effects of glutamic acid and taurine on total parenteral nutrition.	Tsuchioka T, Fujiwara T, Sunagawa M	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Pharmacol 550: 162-165, 2006.	The suppressant effect of GEA3162 on spontaneous serotonin release from human colonic mucosa in vitro	Kojima S, Uchida K, Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y, Kamikawa Y	第一外科学
Eur J Cancer 4(Suppl.2): 169, 2006.	Preliminary results of a phase study of low dose weekly paclitaxel (TXL) plus high dose tremifene (TOR) in patients with metastatic breast cancer (MBC)	Hayashi M, Oyama T, Sunagawa M	第一外科学
消化器外科 29: 105-109, 2006.	カプセル内視鏡による小腸疾患の診断(腫瘍性病変)	下田渉, 白川勝朗, 中村哲也, 喜多宏人, 山本博徳, 砂川正勝, 平石秀幸, 寺野彰	第一外科学
Mmedical forum CHUGAI 10(6): 18-22, 2006	消化器癌診療におけるPETの役割	萩原信悟, 村上康二, 山崎英玲奈, 椿昌裕, 砂川正勝	第一外科学
癌と化学療法 33: 1528-1529, 2006	獨協医科大学病院の外來化学療法—外來化学療法の現状と問題点	砂川正勝, 林光弘, 三好新一郎, 石濱洋美, 内堀由美子	第一外科学
日本大腸肛門病学会雑誌 59: 161, 2006	当科における直腸腫瘍に対する経肛門的局所切除術の現況	椿昌裕, 藤田昌紀, 渡辺理, 砂川正勝	第一外科学
小児外科 38: 581-587, 2006.	先天性嚢胞性腺腫様肺奇形 (CCAM) の組織分類と病態による治療の検討	岩谷さおり, 藤原利男, 土岡丘, 薄井佳子, 砂川正勝	第一外科学
静脈オーダーマニュアル, 改訂, 2006	小児の栄養障害	藤原利男, 砂川正勝	第一外科学
カプセル内視鏡. 南江堂	小腸病変(小腸腫瘍). カプセル内視鏡研究会編	下田渉, 中村哲也, 白川勝朗	第一外科学
小児科 47: 1207-1212, 2006	小児の乳腺腫脹	土岡丘, 藤原利男, 砂川正勝	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
周産期医学 36: 636-637, 2006	新生児一臍帯ヘルニア、腹壁破裂	藤原利男	第一外科学
周産期医学 36: 638-639, 2006	新生児一鼠径ヘルニア、臍ヘルニア	藤原利男	第一外科学
J Hepatobiliary Pancreat Surg 13: 100-104, 2006.	Intraoperative assessment of reconstructed vessels in living-donor liver transplantation, using a novel fluorescence imaging technique	Kubota K, Kita J, Shimoda M, Rokkaku K, Kato M, Iso Y, Sawada T	第二外科学
ransplantation 81: 760-766, 2006.	$\alpha 1$, 3-galactosyltransferase-gene knockout in cattle using a single targeting vector with loxP sequences and cre-expressing adenovirus	Sendai Y, Sawada T, Urakawa M, Shinkai Y, Kubota K, Hoshi H, Aoyagi Y	第二外科学
J Gastrointest Surg 10: 740-745, 2006	Hepatectomy in patients with nonuremic minimal renal failure	Sawada T, Kita J, Rokkaku K, Kato M, Shimoda M, Kubota K	第二外科学
Congress of the International Society of University Colon and Rectal Surgeons Proceedings , pp.141-143, 2006	Effect of the preventive herbal therapy using Dai-kenchu-to on Intestinal obstruction following curative resection for colorectal cancer: Prospective, randomized study, 21 Biennial	Takagi K, Nagata N, Horie T, Ishizuka M, Kubota K	第二外科学
World J Surg 30: 590-597, 2006	Total colectomy improves altered distribution of regulatory T cells in patients with ulcerative colitis	Furihata M, Sawada T, Okada T, Ishizuka M, Horie T, Takagi K, Nagata H, Kubota K	第二外科学
Cancer Lett 248: 24-31, 2006	Deferoxamine enhances anti-proliferative effect of interferon-gamma against hepatocellular carcinoma cells	Okada T, Sawada T, Kubota K	第二外科学
腎と透析 60: 96-97, 2006	保存期腎不全患者における肝切除術の安全性に関する検討	澤田登起彦, 北順二, 加藤正人, 六角丘, 下田貢, 窪田敬一	第二外科学
癌と化学療法 33: 39-42, 2006	進行乳癌に対するDocetaxel (TXT)、Epirubicin (EPI)およびCapecitabine (Xeloda:XLB)を用いたprimary systemic chemotherapyのpilot study	多賀谷信美, 中川彩, 森昭三, 濱田清誠, 鈴木紀男, 窪田敬一	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 60: 325-329, 2006	インドシアニングリーン(ICG)を用いた赤外線蛍光測光による乳癌センチネルリンパ節生検—preliminary report	多賀谷信美, 山崎理絵, 中川彩, 阿部暁人, 濱田清誠, 窪田敬一	第二外科学
日本内視鏡外科学会雑誌 11: 389-393, 2006	急性胆嚢炎に対するPTGBD後の腹腔鏡下手術	多賀谷信美, 窪田敬一	第二外科学
日本腹部救急医学学会雑誌 26: 719-723, 2006	特集: 腹部救急医療におけるリスクマネージメント—外頸静脈穿刺法による中心静脈カテーテル挿入手技の安全性と有用性の検討—鎖骨下静脈穿刺法との比較.	石塚満, 永田仁, 高木和俊, 堀江徹, 降旗誠, 中川彩, 阿部暁人, 窪田敬一	第二外科学
臨床外科 61: 69-74, 2006	乳癌手術におけるクリニカルパス導入の効果	柿原康晴, 多賀谷信美, 中川彩, 森昭三, 濱田清誠, 窪田敬一	第二外科学
新臨床外科学, 第4版, 医学書院, pp.703-712, pp.725-726, pp.742-744, 2006	胆道 A. 先天奇形、 B. 炎症、 D. 外傷、損傷 G. その他の胆道疾患	窪田敬一	第二外科学
全科ドレーン管理マニュアル, 照林社, pp.2-3, 18-21, 92-97, 102-105, 2006	PART1: レナーズの理解—ドレーンの目的と適応, ドレーンに用いられる器具: 穿刺針 PART2: 部位別ドレーン—実際と看護肝・胆・膵ドレーン—経皮経肝胆管ドレーン, 経皮経肝胆嚢ドレーン	緑川泰, 木村理, 針原康, 高山忠利, 幕内雅敏, 野家環, 阿部秀樹, 松倉聡, 渡辺稔, 窪田敬一, 幕内雅敏	第二外科学
外科手術手技図譜, 永井書店, pp.165-174, 2006	中央2区域切除	窪田敬一	第二外科学
塩谷郡市医師会 2006: 88-89, 2006	胃瘻—在宅療養助ける手段に—かかりつけ医のココロ	青木洋	第二外科学
Mebio 22(12): 56-62, 2005	早期膵癌の診断・治療の進歩, 外科的治療の進歩	下田貢, 窪田敬一	第二外科学
臨床病態学, ヌーヴェル広川, pp.190-191, 2006	腎疾患, II 主な疾病と診療—4膵腫瘍	北順二, 窪田敬一	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Modern Physician 26: 1146-1152, 2006	大腸sm癌のEMR根治判定基準	阿部曉人, 小野祐子, 窪田敬一, 藤盛孝博	第二外科学
総胆管囊腫に対する手術. 外科 68: 1581-1585, 2006	胆嚢, 肝外胆道系—4	窪田敬一	第二外科学
手術 60: 903-909, 2006	胆嚢癌手術	窪田敬一	第二外科学
臓器移植推進協会だより 16: 7, 2006	異種移植とクローン技術	澤田登起彦	第二外科学
外科治療 94: 795-800, 2006	下部胆管癌の診断と治療	澤田登起彦, 下田貢, 窪田敬一	第二外科学
手術 60: 1287-1291, 2006	病的肥満に対する腹腔鏡下胃バイパス術	多賀谷信美, 窪田敬一, 笠間和典	第二外科学
手術 60: 1162-1166, 2006	多発性転移性肝癌の術後多発性肝再発に対する手術	北順二, 窪田敬一	第二外科学
消化器画像 8: 79, 2006	胆道外科	窪田敬一	第二外科学
Eur J Cardiothorac Surg 27: 23-27, 2005	Attenuation of lung injury in allograft rejection using NF-kappaB decoy transfection-novel strategy for use in lung transplantation	Miyoshi S, Minami M, Nakane S, Ohta M, Sawa Y, Matsuda H	外科学 (胸部)
Eur J Cardiothorac Surg 27: 768-773, 2005	Application of HVJ-liposome mediated gene transfer in lung transplantation-distribution and transfection efficiency in the lung	Ohmori K, Takeda S, Miyoshi S, Minami M, Nakane S, Ohta M, Sawa Y, Matsuda H	外科学 (胸部)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Thorac Cardiovasc Surg 131: 755-756, 2006	Efficient clinical application of percutaneous cardiopulmonary support for perioperative management of a huge anterior mediastinal tumor	Inoue M, Minami M, Shiono H, Miyoshi S, Takeda S, Ohta M, Goto M, Takano H, Sawa Y, Okumura M	外科学 (胸部)
Asian Cardiovasc Thorac Ann 14: 72-74, 2006	New anastomosis assist devices for coronary artery bypass grafting	Shimamura Y, Takemura T, Agematsu K	外科学 (胸部)
Cough 2: 9, 2006	Acid regurgitation associated with persistent cough after pulmonary resection: an observational study	Sawabata N, Takeda S, Tokunaga T, Inoue M, Maeda H	外科学 (胸部)
Hodder Arnold, pp.43-51, 2006	4. Anterior mediastinal lesions. Operative Thoracic Surgery. 5th ed.	Miyoshi S	外科学 (胸部)
新臨床外科学, 第4版, 医学書院pp. 849-864, 2006	呼吸器「気管」	三好新一郎	外科学 (胸部)
臓器移植推進協会だより 16: 8, 2006	肺移植の現況	三好新一郎	外科学 (胸部)
胸部外科学 59: 820, 2006	1枚のシェーマ「左片肺移植術」	三好新一郎	外科学 (胸部)
胸部外科 59: 1140-1141, 2006	討論1.「原発性肺癌完全切除後再発例の長期予後」	三好新一郎	外科学 (胸部)
脊椎脊髄ジャーナル 19: 178-186, 2006	手術用顕微鏡の構造と特徴	金 彪	脳神経外科学
脊椎脊髄ジャーナル 19: 1139-1149, 2006	筋層構築的棘突起椎弓形成術yoarchitectonic spinolaminoplasty	金 彪, 村田英俊, 黒川龍, 高石吉将, 朝来野佳三, 川本俊樹	脳神経外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脳神経外科—専門医に聞く 最新の臨床, 中外医学社, pp.160-162, 2006	Oligodendrogliomaはastrocytic tumorと生物学的、臨床的にどの ように異なるのか?	植木敬介	脳神経外科学
グリオーマ病態と治療, Springer-Verlag東京, pp.45-55, 2006	グリオーマの遺伝子解析と遺伝子診断	植木敬介	脳神経外科学
治療 88: 1742-1746, 2006	スポーツによる頭部外傷—知っておきたい脳振盪のマネジメント	荻野雅宏	脳神経外科学
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 14: 2-6, 2006	Gravity-assisted pivot-shift test for anterior cruciate ligament injury: a new procedure to detect anterolateral rotatory instability of the knee joint	Sakai H, Yajima H, Kobayashi N, Kanda T, Hiraoka H, Tamai K, Saotome K	整形外科科学
J Rheumatol 33: 119-126, 326-332, 2006	Uremic tumoral calcinosis in hemodialysis patients: Clinicopathological findings and identification of calcific deposits Dose the nature of deposited basic calcium phosphate crystals determine clinical course in calcific periartthritis of the shoulder	Hamada J, Tamai K, Ono W, Saotome K	整形外科科学
J Orthop Surg 14: 147-150, 2006	Difference in stretching of sarcomeres between medial gastrocnemius and tibialis anterior by tibial lengthening. An experiment in rabbits	Kurihashi A, Tamai K, Saotome K, Takemura M, Fujiwara A, Fujita S	整形外科科学
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 14: 2-6, 2006	Gravity-assisted pivot-shift test for anterior cruciate ligament injury: a new procedure to detect anterolateral rotatory instability of the knee joint	Sakai H, Yajima H, Kobayashi N, Kanda T, Tamai K, Saotome K	整形外科科学
Tissue Eng 12: 2333- 2341, 2006	Encapsulation of chondrocytes in photopolymerizable styrenated gelatin for cartilage tissue engineering	Hoshikawa A, Nakayama Y, Matsuda T, Oda H, Nakamura K, Mabuchi K	整形外科科学
J Hand Surg 31A : 896- 903, 2006	An anatomic and biomechanic study of the wrist extensor retinaculum septa and tendon compartments	Iwamoto A, Morris RP, Andersen C, Patterson RM, Viegas SF	整形外科科学
J Hand Surg 31A: 987- 992, 2006	Flexor tendon repair in zone II with six-strand techniques and early active mobilization	Osada D, Fujita S, Tamai K, Yamaguchi T, Iwamoto A, Saotome K	整形外科科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Orthop Sci 11: 607-613, 2006	Histologic classification of loose bodies in osteoarthritis	Saotome K, Tamai K, Osada D, Oshima F, Koguchi Y, Hoshikawa A	整形外科
J Spinal Disord Tech 19: 541-546, 2006	Radiological risk factors of pseudarthrosis and/or instrument breakage after PLF with the pedicle screw system in isthmic spondylolisthesis	Suda K, Ito M, Abumi K, Haba H, T aneichi H, Kaneda K	整形外科
Spine 31: E871-E876, 2006	Comparative study of radiographic disc height changes using two different interbody devices for transforaminal lumbar interbody fusion: open box vs. fenestrated tube interbody cage	Matsumura A, Taneichi H, Suda K, Kajino T, Moridaira H, Kaneda K	整形外科
Spinal Cord 44: 126-129, 2006	Secondary medulla oblongata involvement following middle cervical spinal cord injury associated with latent traumatic instability in a patient with ossification of the posterior longitudinal ligament	Sudo H, Taneichi H, Kaneda K	整形外科
Eur Spine J 15: 1645-1650, 2006	Discriminative validity and responsiveness of the Oswestry disability index among Japanese outpatients with lumbar conditions	Hashimoto H, Komagata M, Nakai O, Morishita M, Tokuhashi Y, Sano S, Nohara Y, Okajima Y	整形外科
Spinal Cord 44: 362-368, 2006	Practice patterns of Japanese physicians in urologic surveillance and management of spinal cord injury patients	Yasuda K, Ushiyama T, Suzuki T, Yamashita Y, Sato R, Kihara T, Yamanishi T, Nohara Y	整形外科
臨床整形外科 41: 169-173, 2006	指趾内軟骨腫に用いたβ-リン酸カルシウム(β-TCP)のX線像の経時的変化	加藤仲幸, 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 高井盛光, 玉井和哉, 早乙女絃一	整形外科
別冊整形外科 49: 164-167, 2006	肘部管症候群に対するKing変法(内上顆斜め骨切除)による治療	藤田聡志, 長田伝重, 岩本玲, 亀井秀造, 加藤仲幸, 玉井和哉, 早乙女絃一	整形外科
東日本整形災害外科学会誌 18: 50-53, 2006	高齢者の不安定型橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートによる治療	藤田聡志, 長田伝重, 亀井秀造, 加藤仲幸, 吉川勝久, 玉井和哉	整形外科
骨折 28: 36-39, 2006	粉碎型尺骨近位部骨折の治療経験	亀井秀造, 長田伝重, 藤田聡志, 加藤仲幸, 吉川勝久, 早乙女絃一	整形外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
東日本整形災害外科学会雑誌 18: 124-127, 2006	高齢者の橈骨遠位端骨折保存療法におけるX線評価と臨床成績の関連	高井盛光, 長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 玉井和哉	整形外科
日本整形外科学会雑誌 80: 422-427, 2006	不安定型橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定と術後早期運動療法	長田伝重, 藤田聡志, 亀井秀造, 益崎浩一郎, 高井盛光, 武山憲行, 玉井和哉, 早乙女純一	整形外科
日本臨床バイオメカニクス学会誌 27: 123-126, 2006	橈骨遠位端骨折発生メカニズム—有限要素法による解析	富沢一生, 長田伝重, 益崎浩一郎, 玉井和哉	整形外科
ペインクリニック 27: 627-631, 2006	一般的に遭遇する腰痛の診断と治療	野原裕	整形外科
肩関節 30: 445-448, 2006	Neer分類に含まれない上腕骨近位端骨折	玉井和哉, 浜田純一郎, 大野弥, 竹村通雄, 黒田雅大, 真志取浩貴, 押味美和子	整形外科
Ed. by John W. Brantigan and Carl Laurysen, pp.215-229, 2006	Clinical outcomes of unilateral TLIF using the brantigan interbody fusion cage for degenerative condition of the lumbar spine. In: Intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants	Taneichi H	整形外科
Ed. by John W. Brantigan and Carl Laurysen, pp.277-287, 2006	Load-bearing capabilities of the brantigan interbody fusion cage. In: intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants	Matsumura A, Taneichi H, Kaneda K	整形外科
by John W. Brantigan and Carl Laurysen, pp.515-523, 2006	Unilateral transforaminal lumbar interbody fusion using the brantigan interbody fusion cage in: intervertebral fusion using carbon fiber reinforced polymer implants, Ed	Taneichi H	整形外科
今日の治療指針2006. 医学書院, pp.748, 2006	いわゆる腰痛症（急性腰痛症を含む）	種市洋	整形外科
今日の治療指針2006, 医学書院, pp.757-758, 2006	反復性肩関節脱臼	玉井和哉	整形外科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
整形外科診療実践ガイド, 文光堂, pp. 556-559, 932-933, 2006	Bennett病変、関節内インピンジメント、上方関節唇損傷 (SLAP損傷) 上腕二頭筋・三頭筋腱皮下断裂	玉井和哉	整形外科学
第13巻, 肩関節・肩甲帯, 中山書店, pp. 21-38, 2006	診察と診断.	玉井和哉	整形外科学
整形外科手術クルズス, 改訂第2版, 南江堂, pp. 262-264, 265-274, 275-281, 282-285, 2006	肩峰下除圧術. 腱板断裂に対する手術. 反復性肩関節前方脱臼に対する手術. 肩鎖関節脱臼に対する手術. 肩鎖関節脱臼に対する手術.	玉井和哉	整形外科学
リウマチ科 35: 131-135, 2006	肩関節周辺疾患に対する診療の実際) 鑑別診断の進め方	大野弥, 玉井和哉	整形外科学
ペインクリニック 27: 627-631, 2006	一般的に遭遇する腰痛の診断と治療	野原裕	整形外科学
整形災害外科 49: 501-504, 2006	肩関節周囲炎の保存治療	玉井和哉	整形外科学
脊椎脊髄ジャーナル 19: 399-405, 2006	腰椎すべり症に対するMini-open TLIF-低侵襲脊椎固定のための傍 脊柱筋間アプローチと正中アプローチの併用	種市洋	整形外科学
MB Orthopaedics 19: 171-181, 2006	高齢者の骨粗鬆症性椎体圧潰 (偽関節) に対する手術療法	種市洋	整形外科学
脊椎脊髄ジャーナル 19: 989-993, 2006	頸椎・胸椎・腰椎のfacet fusion technique	野原裕	整形外科学
Clin Auton Res 16: 66-71, 2006	Urinary dysfunction and autonomic control in amyloid neuropathy	Yamamoto I, Uchiyama T, Liu Z, Asahina M, Higashi M, Arai K, Ito S, Awa Y, Yamamoto K, Kinou M, Hattori T	泌尿器科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mov Disord 21: 816-23, 2006	Incomplete emptying and urinary retention in multiple-system atrophy: when does it occur and how do we manage it?	Ito T, Sakakibara R, Yasuda K, Yamamoto T, Uchiyama T, Liu Z, Yamanishi T, Awa Y, Yamamoto K, Hattori T	泌尿器科学
Spinal Cord 44: 362-8, 2006	Practice patterns of Japanese physicians in urologic surveillance and management of spinal cord injury patients	Kitahara S, Yasuda K, Uchiyama T, Nakai H, Suzuki T, Yamashita T, Sato R, Kihara T, Yamanishi T, Nohara Y	泌尿器科学
Urology 68: 318-23, 2006	Symptom assessment tool for overactive bladder syndrome-overactive bladder symptom score	Homma Y, Yoshida M, Seki N, Yokoyama O, Kakizaki H, Gotoh M, Yamanishi T, Yamaguchi O	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 25: 356-360, 2006	Neurological diseases that cause detrusor hyperactivity with impaired contractile function	Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 25: 763-769, 2006	Bladder sensation in peripheral nerve lesions	Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Yamamoto T, Ito T, Awa Y, Yamamoto K, Kinou M, Yamanishi T, Nomura F	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 25: 815-819, 2006	Effects of 138-355, a b3-adrenoceptor selective agonist, on relaxation of the human detrusor muscle in vitro	Yamanishi T, Yasuda K, Kitahara S, Nakai H, Yoshida K-I, Iizuka H	泌尿器科学
J Urol 176: 1204-1207, 2006	Preparation of single prostate needle biopsy specimen for histological diagnosis and RNA analysis	Fukabori Y, Yoshida K-I, Nukano K, Shibata Y, Yamanaka H, Oyama T	泌尿器科学
J Neurol 253: 1103-10, 2006	Acute urinary retention due to benign inflammatory nervous diseases	Sakakibara R, Yamanishi T, Uchiyama T, Hattori T	泌尿器科学
夜尿症研究 11: 11-16, 2006	初診時における夜尿症背景因子の検討	福原喜春, 新保正貴, 島敬之, 井上淳, 鈴木規之, 富岡進, 田中方士, 上信乃, 北原聡史, 中井秀郎, 安田耕作, 吉田謙一郎	泌尿器科学
自律神経 43: 241-249, 2006	炎症性神経疾患に伴う仙髄自律神経障害(尿閉)	榑原隆次, 山西友典, 内山智之, 平賀陽之, 山本達也, 伊藤敬志, 劉志, 阿波裕輔, 服部孝道	泌尿器科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
自律神経 43: 315-319, 2006	排尿筋収縮における尿路上皮とRho-kinaseの役割	水野智弥, 中西公司, 釜井隆男, 榊原隆次, 内山智之, 山本達也, 伊藤敬志	泌尿器科学
総合リハビリテーション 34: 151-156, 2006	講座「排尿障害: 過活動膀胱」	山西友典, 水野智弥, 中西公司, 吉田謙一郎	泌尿器科学
リッチヒルメディカル, pp.30-39, 2006	長期有効性. 河邊香月監修, タムスロシン有効性と安全性のエビデンス	山西友典	泌尿器科学
日本臨床別冊 内分泌症候群 (第2版) I pp.253-256, 2006	正常ゴナドトロピン性精子形成障害(特発性精子形成障害). 内分泌症候群 —その他の内分泌疾患を含めて—男性性功能 性腺機能低下症	深堀能立, 吉田謙一郎	泌尿器科学
今日の小児治療指針, 医学書院, pp.481, 2006	包茎, 亀頭包皮炎	吉田謙一郎	泌尿器科学
Urology View, メジカルビュー社 4: 66-72, 2006	ミニマム創内視鏡下手術—ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術の実際	釜井隆男, 吉田謙一郎	泌尿器科学
J Cataract Refract Surg 32: 1035-1040, 2006	Active oxygen processing for acrylic intraocular lenses to prevent posterior capsule opacification	Matsushima H, Iwamoto H, Mukai K, Obara Y	眼科学
Can J Ophthalmol 41: 210-215, 2006	Microsatellite polymorphisms of the MICA gene among Japanese patients with Behcet' s disease	Nishiyama M, Takahashi M, Manaka M, Suzuki S, Saito M, Nakae K	眼科学
日本眼科学会雑誌 110: 31-36, 2006	各種粘弾性物質の前房内滞留性と角膜内皮保護作用	松島博之, 寺内渉, 向井公一郎, 和泉田真作, 小原喜隆, 吉田紳一郎, 武島俊介	眼科学
臨床眼科 60: 201-204, 2006	実験的グリスニング発生装置の開発	妹尾正, 高橋佳二, 向井公一郎, 青瀬雅資, 小原喜隆, 吉田紳一郎, 吉田登茂子	眼科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
IOL & RS 20: 29-32, 125-130, 2006	高頻回パルスモードを使用した超音波乳化吸引の効果培養家兎水晶体上皮細胞に対するカルシウムの影響	松島博之, 小出義博, 大木孝太郎	眼科学
日本眼科学会雑誌 110: 361-369, 2006	培養家兎水晶体上皮細胞に対するカルシウムの影響	向井公一郎, 松島博之, 石井康雄, 小原喜隆	眼科学
眼科臨床医報 100: 149- 152, 2006	裂孔原性網膜剥離の年齢別術後成績の検討	増淵由佳子, 松島博之, 寺田理, 妹尾正, 高橋佳二, 鈴木重成, 小原喜隆	眼科学
眼科臨床医報 100: 149- 152, 2006	熱応答ゲル基剤点眼後の角膜涙液交換率	寺田理, 妹尾正, 千葉桂三, 池田恵理, 小原喜隆	眼科学
あたらしい眼科 23: 1225-1227, 2006	白内障超音波乳化吸引術中の前房内圧変化	大沼修, 松島博之, 妹尾正, 小原喜隆	眼科学
IOL & RS 20: 226-228, 2006	角膜疾患・角膜移植眼における眼内レンズの選択法	妹尾正	眼科学
日本眼科紀要 57: 222- 224, 2006	内境界膜剥離を施行した小児の特発性網膜前黄斑線維症の1例	菊池通晴, 妹尾正, 小原喜隆	眼科学
眼科臨床医報 100: 748- 750, 2006	高圧放水による角膜障害の1例	石丸慎平, 増淵由佳子, 寺田理, 千葉桂三, 妹尾正, 小原喜隆	眼科学
眼科プラクティス13, 角膜 外科のエッセンス IV. 角膜 外科の術後合併症とその対 策, 文光堂, pp. 222-227, 2007	DLKPの合併症	妹尾正	眼科学
日本の眼科 77(7): 21-22, 2006	硝子体手術による水晶体酸素分圧の変化—核白内障発症メカニズムの仮説	松島博之	眼科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本コンタクトレンズ学会誌 48: 119-120, 2006	獨協医科大学眼科のコンタクトレンズ診療の巻	千葉桂三	眼科学
眼科の臨床と研究 01. Medical Tribune P58, 2006, 6, 8	第29回日本眼科手術学会「内皮」レーザー虹彩切開術(LI)後水疱性角膜症の発症機序の一考察	妹尾正	眼科学
BANYU製薬, 2006	紫外線は眼にも悪影響	妹尾正	眼科学
Ophthalmics Magazine in a series 4: 16, 2006	ディベートLIによる水疱性角膜所の機序はこうだ!	宇野敏彦, 妹尾正, 加治優一, 山上聡, 桑山泰明, 下村嘉一	眼科学
日本白内障学会誌 18: 19-20, 2006	後発白内障の予防と対策. 第44回日本白内障学会シンポジウムオーガナイザー印象記	林研, 松島博之	眼科学
Geriatric Medicine 44: 1231-1235, 2006	高齢者に多い眼疾患—診断と治療, 予防—2) 老人性白内障	松島博之	眼科学
日本白内障学会誌 18: 31-32, 2006	US-Japan CCRG Meeting印象記. 2006年ARVO印象記	永田万由美 後藤憲仁	眼科学
Auris Nasus Larynx 33: 23-30, 2006	Olfactory dysfunction in sinusitis with infiltration of numerous activated eosinophils	Haruna S, Otori N, Moriyama H, Nakanishi M	耳鼻咽喉科学
Auris Nasus Larynx 34: 57-63, 2006	Endoscopic Transnasal Transethmoidal Approach for Pituitary Tumors: Assessment of Technique and Postoperative Findings of Nasal and Paranasal Cavities	Haruna S, Otori N, Moriyama H, Kamio M	耳鼻咽喉科学
小児耳鼻咽喉科 27: 289-294, 2006	小児心因性難聴の検討	深美悟, 平林秀樹, 小泉さおり, 馬場廣太郎, 春名眞一	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本鼻科学会誌 45: 177-181, 2006	児鼻アレルギーに対するCO2レーザー手術症例の検討	金谷洋明, 内藤文明, 今野渉, 平林秀樹, 馬場廣太郎	耳鼻咽喉科学
日本鼻科学会誌 48: 107-109, 2006	慈恵医大耳鼻咽喉科における内視鏡下鼻内手術の教育研修	春名眞一	耳鼻咽喉科学
日本耳鼻咽喉科学会東京都 地方部会会報 121: 58-61, 2006	慢性副鼻腔炎と下気道疾患	春名眞一	耳鼻咽喉科学
日の治療方針—私はこう治 療している2006, 医学書院, pp.1066, 2006	顔面骨骨折	春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来手術の基本テクニック, 中山書店, pp.119-126, 2006	咽喉頭異物摘出物術	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療のコツと落とし穴 ③喉頭・咽頭疾患, 中山書店, pp.110-111, 2006	咽頭異物の診断と治療	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
アレルギー科 21: 388- 394, 2006	アスピリン不耐症に合併する好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻 内副鼻腔手術の効果	春名眞一	耳鼻咽喉科学
小児科臨床 59: 2639- 2645, 2006	小児科医が知りたい・聞きたい「子どもの耳・鼻・のどQ&A」—副 鼻腔炎 診断に画像診断は必須か	春名眞一	耳鼻咽喉科学
JOHNS 22: 371-376, 681-684, 1463- 1466, 2006	鼻科診療における論点—いわゆる好酸球性副鼻腔炎の診断をどのよ うにするか? 臨床的所見の立場から. 拡大視処置・手術 頭蓋底内視鏡の取扱い. 急性副鼻腔炎—救急疾患の診断と治療.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
ENTONI 64: 22-28, 2006	嗅覚障害の治療 慢性副鼻腔炎による嗅覚障害に対するESSの効果 (1)	春名眞一	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児科臨床 59: 2457-2460, 2006	両側同時に起こる急性化膿性中耳炎の頻度	深美悟	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 78: 54, 55, 56, 57, 2006	Cat cry syndrome. CATCH. Cavernous sinus syndrome. CHARGE association.	盛川宏, 馬場廣太郎	耳鼻咽喉科学
Pharmavision 99: 8-15, 2006	花粉症—Up-To-date	盛川宏, 馬場廣太郎	耳鼻咽喉科学
ENTONI 63: 27-33, 2006	逆流に伴う咽喉頭異常感の薬物治療	後藤一貴, 平林秀樹	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 78: 121-126, 469-476, 625-635, 2006	耳鼻咽喉科領域の疼痛—頸部の痛み 知っておきたい耳鼻咽喉科疾患の病理—喉頭疾患 耳鼻咽喉科と気道・食道異物	平林秀樹 金谷洋明, 平林秀樹	耳鼻咽喉科学
アレルギー科 21: 39-44, 2006	花粉症の病態と治療—スギ花粉症におけるマスク着用効果の客観的評価	白坂邦隆, 吉田博一, 馬場廣太郎	耳鼻咽喉科学
外科治療 94: 659-663, 2006	外科救急処置アトラス—その他の術技—気道・食物異物の除去	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
JOHNS 22: 443-447, 2006	耳鼻咽喉科救急医療マニュアル—救急疾患の診断と治療—咽喉頭異物	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
医薬ジャーナル 42: 899-903, 2006	花粉症2006年の傾向—今シーズンの予測と治療方針	今野渉, 馬場廣太郎	耳鼻咽喉科学
アレルギー・免疫 14: 69-75, 2006	アスピリン(NSAIDs)不耐症—NSAIDs過敏喘息の好酸球性副鼻腔炎	春名眞一	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Tribune 39(44): 23-29, 2006	好酸球性副鼻腔炎	春名眞一	耳鼻咽喉科学
Medical Tribune 39(46): 94-95, 2006	耳鼻咽喉科におけるクラリスロマイシン15年の歩み	春名眞一	耳鼻咽喉科学
J Bone Miner Metab 24: 11-15, 2006.	Randomized trial comparing low-dose hormone replacement therapy and HRT plus 1alpha-OH-vitamin D3 (alfacalcidol) for treatment of postmenopausal bone loss.	Ito G S, Mochizuki Y, Mogi H, Iwaaki Y, Kosha S, Yasui T, Ishihara O, Kurabayashi T, Kasuga Y	産科婦人科学
Hybridoma 25: 358-366, 2006.	Development and characterization of novel monoclonal antibodies against tartrate-resistant acid phosphatase 5.	Kiyokawa I, Mochizuki Y, Sato Y, Sasagawa K, Katagiri K, Tomonaga T, Nomura F, Kojima R, Katayama K	産科婦人科学
Clin Chim Acta 376: 205-212, 2007.	Development of a novel fragments absorbed immunocapture enzyme assay system for tartrate-resistant acid phosphatase 5b.	Ohashi T, Igarashi Y, Mochizuki Y, Miura T, Inaba N, Katayama K, Tomonaga T, Nomura F	産科婦人科学
Congenital Anomalies 46: 160-162, 2006	Callosal agenesis followed postnatally after prenatal diagnosis.	Imataka G, Nakagawa E, Kuwashima S, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O	産科婦人科学
Dokkyo J Med Sci 33: 181-185, 2006.	Clinical evaluation of breech deliveries over a fifteen-year period at a hospital in Ota, Japan.	Yamazaki T, Otsuka S, Inaba F, Fukasawa I, Watanabe H, Inaba N	産科婦人科学
産婦人科の実際 55: 719-723, 2006.	当院における生殖補助医療の技術の変遷と成績.	北澤正文, 野口崇夫, 中野貴史, 河津剛, 星野恵子, 三ツ矢和弘, 深澤一雄, 稲葉憲之	産科婦人科学
日本受精着床学会雑誌 23: 222-226, 2006.	過去5年間の当科における配偶者間人工授精(AIH)の成績.	野口崇夫, 星野恵子, 中野貴史, 武田信彦, 久野達也, 三ツ矢和弘, 深澤一雄, 稲葉憲之	産科婦人科学
日本更年期医学会雑誌 4: 16-130, 2006.	更年期医療の現場で医師の果たすべき役割について.	望月善子	産科婦人科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
栃木県骨カルシウム代謝研究会誌 10-11, 2006.	ビスフォスホネート治療時における骨代謝マーカー測定の有用性について.	望月善子, 大石曜, 大津礼子, 稲葉憲之	産科婦人科学
SERM 2: 62-63, 2006.	塩酸ラロキシフェン治療における新規骨吸収マーカー血清TRACP-5b測定の有用性.	望月善子, 大石曜	産科婦人科学
Osteoporosis Japan 14: 57-58, 2006.	ビスフォスフォネート製剤による骨粗鬆症治療時の骨量増加効果と骨代謝マーカーの変動に関する検討.	大石曜, 望月善子, 大津礼子, 稲葉憲之	産科婦人科学
Progress in Medicine 26: 2273-2275, 2006.	妊娠可能年齢の女性における風疹HI抗体価.	庄田亜紀子, 岡崎隆行, 高山直秀, 稲葉憲之, 加藤達夫	産科婦人科学
Progress in Medicine 26: 1719-1721, 2006.	妊娠可能年齢の女性に対する麻疹ワクチン接種の効果.	高山直秀, 庄田亜紀子, 岡崎隆行, 稲葉憲之, 加藤達夫	産科婦人科学
Progress in Medicine 26: 3297-3300, 2006.	妊婦における麻疹抗体保有率状況.	庄田亜紀子, 岡崎隆行, 高山直秀, 一戸真人, 齊加志津子, 稲葉憲之, 加藤達夫	産科婦人科学
医学と薬学 55: 443-458, 2006.	新規血中酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ骨型アイソザイム (TRACP-5b) 測定キット-オステオリンクス「TRAP-5b」の臨床検討-骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート治療における検討.	石井光一, 中弘志, 正木秀樹, 市村正一, 望月善子, 茶木修, 倉澤健太郎, 稲葉雅章, 西沢良記	産科婦人科学
日本医事新報 4273: 21-27, 2006.	周産期と肝炎ウイルス-特にB型、C型肝炎ウイルスについて.	稲葉憲之, 大島教子, 西川正能, 池田綾子, 高見澤裕吉, 白木和夫	産科婦人科学
産婦人科の実際 55: 1073-78, 1694-1700, 2006.	肥満妊婦とやせ妊婦-そのリスクとケア-帝王切開. 母子感染のスクリーニング 2) 肝炎ウイルス (HBV, HCV) .	稲葉憲之, 大島教子, 西川正能, 林田綾子, 林田志峯, 庄田亜紀子, 岡崎隆行, 根岸正実, 深澤一雄, 渡辺博	産科婦人科学
栃木県産婦人科医報 32: 139-192, 2006.	周産期の感染症-その診断と対応「GBS (B群溶連菌)」.	渡辺博	産科婦人科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
周産期医学 36: 1169-1171, 2006.	筋疾患合併妊娠—周産期専門医.	渡辺博	産科婦人科学
ペリネイタルケア 317: 226-229, 2006.	スキルアップ分娩介助—ちょっと小さい児の娩出.	渡辺博	産科婦人科学
栃木県産婦人科医報 32: 183-184, 2006.	周産期の感染症—その診断と対応「梅毒」.	田所望	産科婦人科学
薬局 57: 1112-1121, 2006.	病期と薬の説明ガイド2006「更年期障害」.	望月善子	産科婦人科学
Clinical Calcium 16(6): 64-71, 2006.	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ.	望月善子	産科婦人科学
産婦人科治療 93: 380-385, 2006.	WHI報告とホルモン補充療法.	望月善子, 大石曜, 稲葉憲之	産科婦人科学
化療ニュース 15: 1-2, 2006.	外来化学療法の現状—その問題点を中心に.	坂本尚徳, 深澤一雄, 稲葉憲之	産科婦人科学
栃木県産婦人科医報 32: 193-195, 2006.	周産期の感染症—その診断と対応「風疹」.	西川正能	産科婦人科学
石塚文平, 金山尚裕, 鈴木秋悦, 安田允編, 新撰産婦人科診療, 永井書店, pp.121-125, 2006.	絨毛性疾患(3) 絨毛癌.	深澤一雄, 坂本尚徳, 稲葉憲之	産科婦人科学
Medical Tribune 10月26日号.	骨粗鬆症治療の現状とラロキシフェン治療の実際.	望月善子	産科婦人科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Adv Exp Med Biol 580: 105-109, 2006.	Genetic influence on carotid body structure in DBA/2J and A/J strains of mice.	Okumura M, Schofield B, Coram J, Tankersley CG, Fitzgerald RS, O' Donnell CP, Shirahata M	麻酔科学
Adv Exp Med Biol 580: 209-214, 319-324, 2006.	Differential expression of oxygen sensitivity in voltage-dependent K channels in inbred strains of mice. Voltage-dependent K channels in mouse glomus cells are modulated by acetylcholine.	Otsubo T, Yamaguchi S, Shirahata M	麻酔科学
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 16: 78-81, 2006.	Comparison between intraperitoneal CO2 insufflation and abdominal wall lift on QT dispersion and rate-corrected QT dispersion during laparoscopic cholecystectomy.	Egawa H, Morita M, Yamaguchi S, Nagao M, Iwasaki F, Hamaguchi S, Kitajima T, Minami I	麻酔科学
Pain Clinic 18: 207-212, 2006.	Optimal effective concentration of lidocaine for stellate ganglion block in pigs.	Morita M, Tezuka M, Kimura Y, Yamaguchi S, Hamaguchi S, Kitajima T	麻酔科学
Anesthesiology 105: 848-851, 2006.	Compression of the subarachnoid space by the enlarged epidural venous plexus in pregnant women.	akiguchi T, Yamaguchi S, Tezuka M, Furukawa N, Kitajima T	麻酔科学
岩崎寛編, 麻酔科診療プラクティス, 文光堂, pp. 180-181, 2006.	全身麻酔終了時の知識: 吸入麻酔後の麻酔覚醒の促進と換気条件, 麻酔器・麻酔回路,	北島敏光	麻酔科学
岩崎寛, 野口孝之, 福田和彦編, 麻酔手技上達のコツ, 南江堂, pp. 227-236, 2006.	硬膜外麻酔施行時の問題点 1. 偶発的硬膜外穿刺後の再穿刺. 2. 硬膜穿刺後頭痛に対する自己血パッチ. 3. 持続硬膜外麻酔用カテーテルの迷入と抜去時の留意点. ここがポイント	北島敏光	麻酔科学
Lisa 13: 296-304, 2006.	CSEAのメカニズム.	滝口鉄郎	麻酔科学
麻酔 55: 1023-1030, 2006.	脊椎MRI所見からみた脊髄も膜下麻酔および硬膜外麻酔施行時の注意点.	滝口鉄郎, 山口重樹, 橋爪義孝, 手塚正智, 北島敏光	麻酔科学
日本臨床麻酔学会誌 26: 550-559, 2006.	脊椎・脊髄の形態を考慮した麻酔.	滝口鉄郎	麻酔科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ペインクリニック 27: 351-359, 519-528, 1148- 1156, 2006.	胸部硬膜外ブロック. 星状神経節ブロック.ターミナルペイン治療. 小児がん患者終末期におけるtotal painと代替療法.	濱口眞輔, 北島敏光 山口重樹, 白井要介, 小林俊哉,	麻酔科学
麻酔・集中治療とテクノロジー 2005: 53-56, 2006.	高機能患者シミュレータによる臨床実習の工夫—いかに学生を本気にさせるか.	松島久雄, 岩瀬良範, 片塩仁, 小野一之, 崎尾秀彰	救急医学
麻酔・ 集中治療とテクノロジー 2005: 49-50, 51-52, 61- 63, 71-72, 2006.	3画面同時録画による喉頭鏡視野の比較検討システム, X-port(TM)によるリアルデータのイーサネット変換とその利点について. ヘッドマウントディスプレイと超小型CCDによる目視視野モニタリング. 直接CCD方式ビデオ喉頭鏡.	岩瀬良範, 松島久雄, 崎尾秀彰, 諏訪邦夫, 三池神也	救急医学
日本臨床麻酔学会誌 26: 77-81, 2006.	ビデオ喉頭鏡とガムエラスティックブジー(gum-elastic bougie)を用いた気管挿管.	高山尚美, 岩瀬良範, 松島久雄, 崎尾秀彰	救急医学
高久史磨監修, 臨床検査 データブック, 医学書院, pp.91-99, 2006.	Medical emergencyに対応する検査.	小野一之	救急医学
山口徹, 北原光夫編, 今 日の治療指針2006, pp.126-127, 2006.	毒キノコ中毒.	岡本裕	救急医学
小越章平監修, 栄養療法ミニマムエッセン シャル, 南江堂, pp.164- 168, 169-173, 174-178, 2006.	熱傷.多発外傷. 敗血症.	中村卓郎	救急医学
日本静脈静脈経腸栄養学会 編集, 第2版, 南江堂, 2006.	静脈経腸ガイドライン.	中村卓郎	救急医学
Nutrition & Dietetics 8: 32-33, 2006.	免疫栄養, 集中治療, 系統的レビュー.	中村卓郎	救急医学
臨床栄養 109: 883-887, 2006.	SGA(主観的包括的栄養評価)ODA(客観的データ栄養評価)ODAを造語した経緯とその意義.	井上善文, 雨海照祥, 佐々木雅也, 中村卓郎	救急医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
救急医学 30: 939-944, 2006.	不整脈の増悪・誘発因子—薬剤および毒物による不整脈.	根本真人, 小野一之	救急医学
麻酔・集中治療とテクノロジー 2005: 125, 2006.	獨協医科大学病院救命救急センターにおけるヘリコプター搬送の実際.	片塩仁, 崎尾秀彰	救急医学
日本臨床救急医学会雑誌 9: 172, 2006.	救急領域におけるビデオ喉頭鏡の教育効果.	松島久雄, 小野一之, 岩田健司, 神津成紀, 片塩仁, 根本真人, 小林光太郎, 中村卓郎, 崎尾秀彰	救急医学
Am J Transplant 6: 3042-3043, 2006.	A solid tumor of donor ccell-origin after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation.	Arai Y, Arai H, Aoyagi A, Yamagata T, Mitan K, Kubota K, Kawamata H, Imai Y	口腔外科学
Forensic Sci Int 159: 51-54, 2006.	Traffic injury of the pregnant women and fetal or neonatural outcomes.	Hitosugi M, Motozawa Y, Kido M, Yokoyama T, Kawato H, Kuroda K, Tokudome S	口腔外科学
J Oral Maxillofac Surg 64: 1731-1735, 2006.	A retrospective analysis of oral and maxillofacial injuries in motor vehicle accidents.	Yokoyama T, Motozawa Y, Sasaki T, Hitosugi M	口腔外科学
Int J Pediatr Otorhinolaryngol 70: 331-334, 2006.	Accidental choking in a patient with treacher collins syndrome.	Kido M, Hitosugi M, Yokoyama T, Kawato H, Nagai T, Tokudome S	口腔外科学
J Med Dent Sci 53: 57-66, 2006.	Role of caspase 8 as a determinant in chemosensitivity of p53-mutated head and neck squamous cell carcinoma cell lines.	Kaneda I, Himamoto H, Matsumura K, Ramanathan A, Shengliang Zhang, Sakai E, Omura K, Tsuchida N	口腔外科学
栃木県歯科医学会誌 58: 49-52, 2006.	インプラント前処置としてなされた造骨部位の組織学的検討: 補填物【自家骨, 除タンパクした牛骨 (Bio-Oss), b-TCP (BioResorb, オスフェリオン), PRP (多血小板血漿)】による比較.	川又均, 佐々木忠昭, 今井裕	口腔外科学
栃木県歯科医学会誌 58: 57-61, 2006.	シェーグレン症候群の口腔乾燥症に対する塩酸セピメリンの治療効果に関する検討.	和久井宗大, 土肥豊, 角田賀子, 金沢優美, 澁澤富喜子, 加藤洋史, 麻野和宏, 酒井英紀, 佐々木忠昭, 今井裕	口腔外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔粘膜学会雑誌 12: 11-15, 2006.	当科での若年者シェーグレン症候群における検討.	加藤洋史, 酒井英紀, 品川泰弘, 川又均, 佐々木忠昭, 今井裕	口腔外科学
山口徹, 北原光夫, 福井次 矢, 相沢好治編, 今日の治療指針2006, 医学書院, pp.1103-1103, 2006.	口腔金属アレルギー.	今井裕	口腔外科学
Curr Pharm Des 12: 379-85, 2006.	Differentiation-inducing therapy for solid tumors.	Kawamata H, Tachibana M, Fujimori T, Imai Y	口腔外科学
歯界展望 107: 413-418, 2006.	Observation from West Coast, 日米歯科事情比較9—アメリカの 歯学部における学生教育—歯学部入学規定から歯科医師免許取得ま で).	齋藤高, 岩瀬博建, 勝村聖子, 重田優子, 小川匠, 松香芳三	口腔外科学
総合リハビリテーション 34: 971-974, 2006.	上肢関節拘縮と装具療法.	吉田健哉, 古市照人, 島袋久弥	リハビリテーショ ン科学
Medical Rehabilitation 71: 39-45, 2006.	関節リウマチの理学療法.	加藤祝也, 古市照人, 大島広一	リハビリテーショ ン科学
日野原重明, 井村裕夫監 修, 最新医学講座 第17 巻: 老人の医療, 第2版, 中山書店, pp.482-488,488-494, 2005.	老年医学的リハビリテーションの目標と評価. 理学療法.	広瀬健, 江藤文夫	リハビリテーショ ン科学
江藤文夫編集, よくわかる リハビリテーション, ミネルヴァ書房, pp.98-101,102-105, 2005.	心筋梗塞. 慢性閉塞性肺疾患(COPD).	広瀬健	リハビリテーショ ン科学
貝塚みどり, 大森武子, 江 藤文夫, 酒井郁子編, リハビリテーション看護, 第2版, 医歯薬出版, pp.26-28,74-82,105-135, 2006.	リハビリテーションチームと諸療法. 循環機能障害のリハビリテーション. 基礎となる機能評価.	古市照人, 広瀬健, 澁谷健一郎	リハビリテーショ ン科学
東京都老人総合研究所発行, pp.1-152, 2006.	療養病床施設・老人保健施設・認知症グループホームの多施設共同 調査.	荒井由美子, 江藤文夫, 遠藤英 俊, 葛谷雅文, 高橋龍太郎, 鳥羽研二, 林泰 史, 広瀬信義, 古 市照人	リハビリテーショ ン科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Rehabilitation 71: 1, 2006.	関節リウマチのリハビリテーション.	古市照人	リハビリテーション科学
総合リハビリテーション 34: 927-931, 2006.	卒前教育.	大山輝夫, 古市照人	リハビリテーション科学
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 40: 148-152, 2006.	Clinical evaluation and morbidity of 201 free jejunal transfers for oesophagopharyngeal reconstruction during the 20 years 1984-2003.	Sarukawa S, Asato H, Okazaki M, Nakatsuka T, Takushima A, Harii K	形成外科学
J Plast Reconstr Aesthet Surg 59: 465-473, 2006.	One-stage reconstruction of facial paralysis associated with skin/soft tissue defects using latissimus dorsi compound flap.	Takushima A, Harii K, Asato H, Momosawa A, Okazaki M	形成外科学
J Reconstr Microsurg 22: 499-505, 2006.	Volumetric changes in the transferred flap after anterior craniofacial reconstruction.	Sarukawa S, Okazaki M, Asato H, Koshima I	形成外科学
J Biomed Materials Res 78(A): 1-11, 2006.	Cartilage tissue engineering using human auricular chondrocytes embedded in different hydrogel materials.	Takahashi T, Nakatsuka T, Koshima I, Nakamura K, Kawaguchi H, Chung UI, Takato T, Hoshi K	形成外科学
Plast Reconstr Surg 118: 1579-84, 2006.	Digital artery perforator flaps for fingertip reconstructions.	Urushibara K. Fukuda N. Ohkochi M. Nagase T. Gonda K. Asato H. Yoshimura K	形成外科学
頭頸部癌 32: 486-493, 2006.	咽頭喉頭頸部食道摘出術後の再建における多施設共同研究.	不服敬裕, 関室充, 桜庭実, 朝戸裕貴, 桜井裕之, 中川雅裕, 兵頭伊久夫, 栗田智之, 吉田聖, 熊本芳彦, 田中克己	形成外科学
Elsevier, pp859-882, 2006.	Midface reconstruction. Ed. by Mathes SJ. Saunders, Plastic Surgery, 2nd Ed. Volume III, The Head and Neck, Part 2.	Harii K, Asato H, Takushima A	形成外科学
形成外科 49: S189-S192, 2006.	顔面・四肢外傷治療のABC. III. 四肢, 2. 損傷部位・形態からみた処置法, 特殊型損傷, d)咬創.	加我君孝, 朝戸裕貴	形成外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Heart J 47: 409-420, 2006.	Relationship between markers of inflammation and brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese men.	Andoh N, Minami J, Ishimitsu T, Ohruji M, Matsuoka H	健康管理科
Am J Hypertension 19: 1233-1240, 2006.	Cardiorenal protective effects of year-long antihypertensive therapy with a angiotensin-converting enzyme inhibitor or a calcium channel blocker in spontaneously hypertensive rats.	Honda T, Ohno S, Akashiba A, Takahashi T, Kameda T, Yoshii M, Minami J, Takahashi M, Ono H, Matsuoka H	健康管理科
Atherosclerosis 187: 92-100, 2006.	Critical role of bradykinin-eNOS and oxidative stress-LOX-1 pathway in cardiovascular remodeling under chronic angiotensin-converting enzyme inhibition.	Kobayashi N, Honda T, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Tsubokou Y, Matsuoka H	健康管理科
Hypertension 47: 671-679, 2006.	Cardioprotective mechanisms of eplerenone on cardiac performance and remodeling in failing rat hearts.	Kobayashi N, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Honda T, Tsubokou Y, Matsuoka H	健康管理科
治療 88: 613-619, 2006.	(日常診療での疑問や噂にズバリ答えます！ The Truth of Rumors)、診療手技・検査: 健診でピロリ菌を検査することに意義があるのか？	渡邉菜穂美, 平石秀幸	健康管理科
総合臨床 55: 1483-1487, 2006.	健康診断をめぐる)、健康診断と疾病: 健康診断における消化管検査の目的と方法.	渡邉菜穂美, 平石秀幸, 寺野彰	健康管理科
Nature Clin Prac Gastroenterol Hepatol 3: 376-377, 2006.	Is transnasal esophagogastroduodenoscopy safer than transoral esophagogastroduodenoscopy with regard to cardiopulmonary function?	Nakamura T	光学医療センター (内視鏡)
Gastrointest Endosc 64: 40-44, 2006	Magnifying pharmacoscopy: response of microvessels to epinephrine stimulation in differentiated early gastric cancers.	Shirakawa K, Nakamura T, Suzuki K, Masuyama H, Fujimori T, Hiraishi H, Terano A	光学医療センター (内視鏡)
Dig Endosc 18: 263-268, 2006.	Correlations between video capsule endoscopic findings and clinical activity in Crohn's disease.	Morita E, Tanaka T, Nakamura T, Terabe F, Hirata I, Katsu K, Takazoe M, Terano A	光学医療センター (内視鏡)
カプセル内視鏡診療ガイド, 南江堂, pp. 8-24, 76-77, 91, 100, 2006.	I. 総論 2. 検査の実際. II. 各論 3. 小腸病変—②クローン病Case15小腸クローン病各論 4. 小腸病変—③クローン病以外の潰瘍性病変Case27好酸球性腸炎各論 6. 小腸病変—⑤小腸腫瘍Case33粘膜下腫瘍 (GIST) II. 各論 6. 小腸病変—⑤小腸腫瘍Case39空腸血管腫	山岸秀嗣, 中村哲也, 白川勝朗, 岩本美智子, 山本博徳, 中野道子, 寺野彰, 生沼健司,	光学医療センター (内視鏡)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
井廻道夫, 日比紀文編, 図解消化器内科学テキスト, 中外医学社, pp.124-126, 2006.	IV検査方法B. 消化管の検査6. カプセル内視鏡	中野道子, 平石秀幸, 中村哲也	光学医療センター (内視鏡)
日本消化器内視鏡学会監 修, 消化器内視鏡ガイドラ イン, 第3版, 医学書院, pp. 299-309, 2006.	レーザー内視鏡治療ガイドライン	中村哲也, 松井裕史, 榎原啓之	光学医療センター (内視鏡)
金澤一郎, 北原光男, 山口徹, 小俣政男総編, 内科学, 医学書院, pp.126-128, 2006	H2受容体拮抗薬とプロトンポンプ阻害薬	寺野彰, 中村哲也, 玉野正也	光学医療センター (内視鏡)
Proc SPIE Medical Imaging 2006 6144: 1801-1808, 2006.	Computer-aided Detection System of Breast Masses on Ultrasound Images.	Ikedo Y, Fukuoka D, Hara T, Fujita H, Takada E, Endo T, Morita T	光学医療センター (超音波)
日本癌検診学会誌 15: 155-159, 2006.	ネパール王国における乳癌診療の現況—JABT国際委員会ネパール派 遣団報告	藤本泰久, 高田悦雄	光学医療センター (超音波)
J Med Ultrason 33: 239-244, 2006.	Establishment of seminars to improve the diagnostic accuracy and effectiveness of breast ultrasound.	ohno E, Sawai K, Shimamoto K, Ueno E, Endou T, Tsunoda-Shimizu H, Shirai H, Takada E:	光学医療センター (超音波)
Lung Cancer 47: 235-242, 2005.	Pitfalls in lymph node staging with positron emission tomography in non-small cell lung cancer patients.	Takamochi K, Yoshida J, Murakami K, Niho S, Ishii G, Nishimura M, Nishiwaki Y, Suzuki K, Nagai K	PETセンター
日本胸部臨床 65: 1-10, 2006	癌画像診断に応用したPETの活用法	村上康二	PETセンター
INNERVISION 21(2): 6-11, 2006	PET/CTの臨床的意義と有効性—新しい応用	村上康二	PETセンター
PET診断. 肝臓 47: 203-208, 2006.	肝疾患の画像診断: 最近の進歩と将来展望	村上康二	PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
外科 68: 621-626, 2006.	特集 外科領域におけるPETの意義と臨床応用 1. 総論	村上康二	PETセンター
INNERVISION 21(8): 26-29, 2006	核医学検査の実際とその役割 乳房温存療法に対するFDG-PETとシンチグラフィの有用性について	山崎英玲奈, 村上康二, 萩原信悟, 林光弘, 橋本禎介	PETセンター
コンセンサス癌治療 5: 148-153, 2006	肝胆膵癌におけるPET診断の意義	萩原信悟, 村上康二, 山崎英玲奈, 砂川正勝	PETセンター
臨床消化器内科 21: 1799-1802, 2006	PET-CT	萩原信悟, 村上康二, 山崎英玲奈, 椿昌裕, 砂川正勝	PETセンター
臨床放射線 51: 1709-1717, 2006.	FDG-PET	村上康二, 藤田昌紀, 山崎英玲奈, 伊藤友一, 渡辺理, 椿昌裕, 砂川正勝	PETセンター
別冊・医学のあゆみ, 消化器疾患—State of Arts 1, 消化管(食道・胃・腸) Ver. 3, 医歯薬出版, pp. 265-269, 2006.	PET	村上康二	PETセンター
阿部恭子, 矢形寛, 乳がん患者ケアガイド. Nursing Mook 38, 学習研究社, pp. 40-44, 2006.	PET (陽電子放射断層撮影検査)	山崎英玲奈, 村上康二, 萩原信悟	PETセンター
加藤治文, 西條長宏監修, 肺癌診療を安全に行うため に. 中外医学社, pp. 12-16, 2006.	検査を安全に行うためには—MRI—	中島寛人, 村上康二, 縄野繁	PETセンター
笑顔 37(4): 10-13, 2006.	がんの新しい診断法「PET」	村上康二	PETセンター
江口研二, 肺癌診療マニュアル. 中外医学社, pp. 61-69, 2006.	核医学診断 (PET)	村上康二	PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
GI Research 14 429, 2006.	特集 PETと消化器疾患 序	村上康二	PETセンター
映像情報Medical 38 1043, 2006	特集 核医学の新たな展開 序説	村上康二	PETセンター
Medical forum CHUGAI 10(6) : 18-22, 2006.	消化器診療におけるPETの役割	萩原信悟, 村上康二, 山崎英玲奈	PETセンター
医学と薬学 56 : 79-84, 2006.	全自動免疫測定装置AxSYMを用いたHIV p24抗原, HIV-1/2抗体同時検査試薬アキシムHIV Ag/Abコンボアッセイ・ダイナバックRの評価	池田真由美, 及川信次, 吉田敦, 冢入蒼生夫	臨床検査部
感染症学雑誌 80 : 488-495, 2006	Streptococcus dysgalactiae subsp. Equisimilisの遺伝子解析によるemm型別と経口抗菌薬感受性	堀橋宏夫, 小林玲子, 山本芳尚, 奥住捷子, 吉田敦, 三澤慶 樹, 安達桂子, 生方公子	臨床検査部
医学と薬学 56: 743-751, 2006	血中CA19-9測定試薬アーキテクトR・CA19-9TM XRの評価	堀内裕次, 屋代剛典, 中尾美佐子, 池田真由美, 及川信次, 冢入蒼生夫	臨床検査部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たっての内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度の平成18年4月1日～平成19年3月31日の一年間に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者	病院長 稲葉 憲之			
担当管理者氏名	薬剤部長	越川 千秋	手術部師長	野沢 三枝子
	庶務課長	稲見 清一	医事保険課長	渡邊 栄
	診療記録管理部課長	河合 輝道	医療安全対策課	五月女 弘実
	連携医療部課	麻生 保		

	保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各課診療日誌 処方箋、手術記録、看護記録 検査所見記録、エックス線写真 紹介状、退院した患者に係る入院期間中の 診療経過の要約	診療記録管理部 薬 剤 部 手 術 部	カルテ、エックス線写真とも 入院・外来を含む1患者 1ファイル方式として管理 している	
病院の管理及び 運営に関する諸 記録	従業員を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発 及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課	
	患者紹介に対する医療提供 の実績	連携医療部 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬 剤 部	
	規則 第9 条の 2、 3及 び1 1条 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う 者の配置状況	医療安全対策課
		専任の院内感染対策を行う者の配 置状況	感染防止対策課
		医療に係る安全管理を行う部門の 設置状況	医療安全対策課
		当該病院内に患者からの安全管理 に係る相談に適切に応じる体制の 確保状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための指針 の設備状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための委員 会の開催状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための職員 研修の実施状況	医療安全対策課
医療機関内の事故報告等の医療に 係る安全の確保を目的とした改善 のための方策の状況	医療安全対策課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 中田 英夫
閲覧担当者氏名	庶務課長 稲見 清一
閲覧の求めに応じる場所	事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	46.7%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者数		17,346人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,826人
	C：救急用自動車によって運搬された患者の数		3,900人
	D：初診の患者の数		55,620人

- (注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること
2. A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規程第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任（5）名〈専任安全管理者1名含む〉 兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>組織横断的に院内の安全管理を担う部門として医療安全管理部医療安全対策課を置き、次に掲げる業務を遂行している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会、リスクマネジャー小委員会及び医療事故対策委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会等の庶務に関すること。 2) 医療事故防止対策マニュアルの改訂についての企画、原案の作成、各種委員会への提案及び制定に関すること。 3) 医療安全に関する院内パトロールの実施に関すること。 4) インシデント・アクシデント情報の収集、分析と改善策立案に関すること。 5) インシデント・アクシデント情報に関する改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること。 6) 医療安全対策研修会の開催（講習内容・講師選定・運営・まとめ）に関すること。 7) 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に伴う、インシデント・アクシデント情報の報告〔報告先：(財)日本医療機能評価機構〕に関すること。 8) 医療安全対策院内広報誌（医療安全対策課広報・毎月1回発行）の発行に関すること。 9) その他、医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方と長期的目標 <p>【基本方針】</p> <p>厚生労働省の基本方針に沿って本院においてもこれを基本方針として取り組みを進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全管理のための病院指針の整備 ② 安全管理のための医療事故等院内報告制度の整備 ③ 安全管理のための委員会の定例開催 ④ 安全管理のための職員研修の開催の義務化 <p>【長期的目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者様最優先の医療を徹底する。 ② 患者様の満足度を高める医療を行う。 ③ 医療従事者は、常に「危機意識」を持ち業務にあたる。 ④ 医療行為においては、確認・再確認・相互確認等を徹底する。 	

- ⑤ 患者様との円滑なコミュニケーションとインフォームドコンセントに配慮する。
- ⑥ 記録は正確かつ丁寧に記載し、チェックを行う。
- ⑦ 情報の共有化を図る。
- ⑧ 自己の健康管理と職場のチームワークのもとにチーム医療を遂行する。
- ⑨ 医療事故防止のための教育・研修システムを実行する。

また、この他に病院の理念を下記のとおり定めている。

- ① 高度で良質な医療の提供
- ② 医療倫理の徹底
- ③ 医療の進歩への貢献
- ④ 良質な医療人の育成
- ⑤ 連携医療の構築

2. 医療安全管理に関する各種委員会・組織等の活動と改善の方策

① 医療安全管理委員会

獨協医科大学病院の医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するための委員会の1つである。委員会は、病院長の諮問に応じ所掌業務について調査審議し、経過又は結果を病院長に報告する他、所掌業務について病院長に建議する。委員会は定例的に毎月1回とし、随時必要に応じて開催する。

② 医療事故対策委員会

病院長を委員長とした委員会で、大学病院運営委員会常任委員会の委員をもって構成する。委員会は発生した医療事故の報告を受け、事故の対策にあたる。

③ リスクマネジャーの配置

医療安全管理委員会は、病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討し決定する組織であるが、これとは別に、実際にそれぞれの医療現場で事故防止の取り組みを行う体制を整備するため、その中心的な役割を担う教職員として、「リスクマネジャー」を任命（82名）しており、インシデント事例の報告内容の把握、検討等を行い、医療事故の防止の任にあたっている。

④ 医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会

医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会は、各部門と医療安全管理委員会とを結ぶ役割を担うものであり、両者の密接な連絡を図ること、さらに医療事故防止対策を実効あるものとするために、医療安全管理委員会の下部組織としてリスクマネジャー委員会を設置している。委員会は、医療安全管理委員会の方針に添って事故の分析や安全対策の具体策について調査検討する。

なお、事故に繋がりやすい項目については、リスクマネジャー小委員会（薬剤、人工呼吸器、輸血、転倒・転落、医療機器・用具、中心静脈栄養、車椅子、安全講習会企画、ファイバー）に分かれ、発生原因の分析・改善策の立案及び改善策実施状況の検証を行っている。

⑤ 病院診療部長会議、病院連絡会

病院診療部長会議、病院連絡会等の会議を通じて、医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会等からの事項を周知させている。

3. アクシデント・インシデント報告について

医療事故（＝アクシデント）は、医療が行われる場所で医療の全過程で発生する全ての人身事故を包含する言葉として使用し、医療従事者に「過失がない」場合と「過失がある」場合を問わない。このような場合には、速やかにアクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。しかし「過失がある」場合は、これを分けて「医療過誤」と称する。例えば、医療の過程において医療従事者が当然払うべき業務上の注意義務を怠りこれによって患者に障害を及ぼした場合をいう。これにつ

いては、アクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うとともに、「問題（又は問題となりうる）事例届（規程別紙様式2）」を提出することとしている。

また、インシデントについては、日常診療の現場で、“ヒヤリ”としたり“ハッ”とした経験について、インシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「インシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。

なお、インシデント報告に当たっては、当該報告をしたことを理由に不利益となる処分は行わないこととしている。

4. 医療安全の管理のための職員研修に関する基本方針

医療安全対策の取り組みを進める上で、教職員一人ひとりが安全に対する意識を高め、対応能力の向上を図ることが重要であることを踏まえて、教職員の教育・研修を行っている。職種別、部署別に医療安全対策に対する検討、又は研修会を随時行う他、全教職員を対象とする研修会を年2～4回行い、医療事故防止に対する意識の高揚を図ることとしている。

5. 医療事故（医療過誤）発生時の対応

医療事故が発生した場合、事故かニアミスか、また、事態が病院側の過誤に起因するのかそうではないのかとの判断は極めて重要なことではあるが、まず、患者サイドに立ち当院として対応すべき基本となることを明記した。従って、本対応は主として相当に重大な事故が発生した場合を念頭に置きつつ、事故かどうか判然としないような場合も視野に入れた内容としている。

6. 安全管理体制についての情報開示について

病院の安全管理体制は患者にとっても重要な関心事項であることを考慮して、秘密保護が必要な情報を除き、開示するための検討を進めることとする。

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

平成18年度

年 12 回

・活動の主な内容

<所掌業務>

- (1) 医療安全対策の検討及び研究に関すること
- (2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
- (3) 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
- (4) 医療安全対策のために行う提言に関すること
- (5) 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
- (6) その他、医療安全対策に関すること

<具体的活動内容>

1. 平成18年4月24日開催

- ①3月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③平成18年度医療安全管理委員会委員の確認
- ④平成18年度リスクマネジャーの確認
- ⑤平成18年度医療安全対策講習会実施結果報告
- ⑥リスクマネジャーに対するアンケート調査結果報告
- ⑦転倒・転落危険度調査（3月分）結果報告

2. 平成18年5月22日開催

- ①4月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告

- ③平成18年度 AED 講習会実施結果報告
- ④平成18年度リスクマネジャー小委員会検討項目の確認
- ⑤新「医療事故防止対策マニュアル（ポケット版）」の配付
- ⑥転倒・転落危険度調査（4月分）結果報告
- ⑦酸素チューブの改善（事故事例改善策）報告

3. 平成18年6月29日開催

- ①5月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③リスクマネジャー小委員会実施結果報告
- ④平成18年度リスクマネジャー小委員会委員名簿の確認
- ⑤平成17年度リスクマネジャー小委員会発表集録の配付
- ⑥医療事故防止のための患者様用パンフレットの配付
- ⑦獨協医科大学病院医療に係る安全管理のための指針並びに医療安全管理規程の一部改正
- ⑧医療安全対策講習会実施結果報告
- ⑨転倒・転落危険度調査（5月分）結果報告

4. 平成18年7月24日開催

- ①6月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③転倒・転落危険度調査（6月分）結果報告
- ④造影剤の使用方法に関する講習会の開催
- ⑤医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施

5. 平成18年8月28日開催

- ①7月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロール実施結果報告
- ④警察官経験者（OB）の採用に関すること
- ⑤医療安全対策講習会の開催
- ⑥転倒・転落危険度調査（7月分）の確認

6. 平成18年9月25日開催

- ①8月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③平成18年度医療監視の実施
- ④転倒・転落危険度調査（8月分）結果報告

7. 平成18年10月31日開催

- ①9月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③平成18年度医療監視実施結果報告
- ④医療安全対策講習会実施結果報告
- ⑤転倒・転落危険度調査（9月分）結果報告
- ⑥医療材料における使用期限確認の徹底

8. 平成18年11月29日開催

- ①10月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③私立医科大学付属病院間における医療事故防止のための相互チェック実施結果報告

- ④医療安全対策講習会の実施
- ⑤平成18年度医療安全推進週間実施結果報告
- ⑥手術における確認業務の徹底

9. 平成18年12月26日開催

- ①11月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策講習会実施結果報告
- ③医療安全対策講習会「輸血に関する医療安全」の実施
- ④「平成18年度医療監視監査結果に基づく安全管理体制の強化」の周知徹底

10. 平成19年1月29日開催

- ①12月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告
- ③平成18年度第12回医療安全対策講習会実施結果報告
- ④AEDのバージョンアップ
- ⑤リスクマネジャー小委員会活動内容報告

11. 平成19年2月28日開催

- ①1月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告
- ③平成18年度医療安全対策講習会出席状況調査の実施

12. 平成19年3月28日開催

- ①2月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全管理マニュアルの改正について
- ③「平成18年度RM小委員会活動内容報告会」実施結果報告
- ④「AED指導者(仮称)」の任命
- ⑤平成19年度医療安全対策講習会実施計画書(案)の確認

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成18年度
年 15 回

・研修の主な内容

○第1回 開催日：平成18年4月10日(月)・5月30日(火) 午後5時から7時

形態：実技講習会

講師：リハビリテーション科 理学療法士

演題：「やさしさを行動に～車椅子操作訓練を通して～」

内容：講義と体験の組み合わせた講習会であり、知っているようで知らない車椅子の正式名称、各部品・部位の機能・基礎知識、簡単操作ができるようで意外と難しい操作方法など体験を通し車椅子の安全操作について学ぶ。

参加者：205名

○第2回 開催日：平成18年4月12日(水) 午後5時から7時

形態：講習会

講師：医療安全管理部 医療安全対策課 課長補佐 篠原 君夫

看護部副部長兼安全管理者 出井セツ子

テルモ(株)ホスピタルカンパニー

兼営業部学術情報担当 渡辺 愛弓 先生

演題：「当院における個人情報保護の取り組み」

「当院における医療安全対策の取り組み」

「医療事故防止への取り組み」

内 容：当院における医療安全管理体制インシデントの報告ルートやインシデントの報告状況、患者様のアンケートから得られた理想の医師像や看護師像について、解説がなされた。「医療機関を取り巻くじょうきょう」、「リスクマネジメントに係る用語」、「原因思考の考え方で事故防止に向けての取り組み方法」について解説がなされた。

参加者：392名

○第3回 開催日：平成18年4月14日（金）午前9時から午後4時30分

形 態：実技講習会（対象：平成18年度臨床研修医）

講 師：テルモ株式会社 社員及び看護師長・主任7名

演 題：「模擬腕を使用した静脈穿刺・採血（体験学習）」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方（体験学習）」

内 容：平成18年度臨床研修医が模擬腕を使用して静脈穿刺・採血、輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方を体験した。

参加者：40名

○第4回 開催日：平成18年5月10日（水）午後5時から7時

平成18年5月17日（水）午後5時から7時

平成18年5月24日（水）午後5時から7時

形 態：実技講習会

講 師：救急医学講座 医師

演 題：「AED講習会（対象：薬剤部・放射線部・臨床検査部・輸血部・臨床工学部・病理部・事務部）」

内 容：AED（自動体外式除細動器）の使用方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：127名

○第5回 開催日：平成18年6月20日（火）午後5時から6時30分

形 態：ビデオ講習会

講 師：医療安全管理部 医療安全対策課 篠原 君夫
看護部副部長兼安全管理者 出井セツ子

演 題：「当院における個人情報保護の取り組み」

「当院における医療安全対策の取り組み」

内 容：第2回のビデオ講習会を開催した。

参加者：168名

○第6回 開催日：平成18年6月20日（火）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：パラマウントベッド株式会社 営業二課 主管課長 須田 義己 先生

演 題：「ベッドの安全操作方法講習会」

内 容：ベッドの安全な操作方法と点検方法について、説明があった。

参加者：81名

○第7回 開催日：平成18年6月28日（水）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：栃木県警察本部 組織犯罪対策課組織犯罪対策官
栃木県警視 小室 賢 先生

演 題：「暴力行為に対する対策」

内 容：暴力団等から不当な要求があった場合の対応方法について、解説がなされた。

参加者：590名

○第8回 開催日：平成18年9月13日（水）午後5時30分から7時

形態：実技講習会

講師：救急医学講座 医師

演題：「緊急時における対応」

内容：緊急時における対応方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：79名

○第9回 開催日：平成18年10月5日（木）午後5時30分から午後7時

形態：講習会

講師：①放射線医学 教授 楫 靖 先生

②第一製薬株式会社薬事部 大谷 友見子 先生

③エーザイ株式会社 法律顧問

TMI総合法律事務所パートナー 長坂 省 先生

演題：①「造影剤を使用するとき知っておいてほしいこと」

②「薬剤の添付文書について～特に造影剤について」

③「造影剤に起因する健康被害に関する医療関係者の法的責任」

内容：造影剤の正しい使用方法について、解説がなされた。

参加者：457名

○第10回 開催日：平成18年11月29日（水）午後5時から7時

形態：講習会

講師：救急医学講座 医師

演題：「ガイドライン（2005年度版）に基づいたAED使用の変更点について」

内容：ガイドライン（2005年度版）に基づいたAED使用方法の変更点について、解説がなされた。

参加者：476名

○第11回 開催日：平成18年12月20日（水）午後5時から7時

形態：実技講習会

講師：臨床工学部 臨床工学技師

演題：「人工呼吸器操作訓練」

内容：人工呼吸器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：82名

○第12回 開催日：平成19年1月17日（水）午後5時から7時

形態：講習会

講師：東京都立駒込病院 輸血・細胞治療科

部長 比留間 潔 先生

演題：「血液製剤の適正使用～病院はどのように取り組むべきか」

内容：血液製剤の適正な使用方法について、解説がなされた。

参加者：384名

○第13回 開催日：平成19年2月15日（木）午後5時から6時30分

形態：ビデオ講習会

講師：救急医学講座 医師

演題：「ガイドライン（2005年度版）に基づいたAED使用の変更点について」

内容：第10回のビデオ講習会を開催した。

参加者：108名

○第14回 開催日：平成19年2月26日（月）午後5時から6時30分

形態：ビデオ講習会

講師：東京都立駒込病院 輸血・細胞治療科

部長 比留間 潔 先生

演題：「血液製剤の適正使用～病院はどのように取り組むべきか」

内容：第12回のビデオ講習会を開催した。

参加者：102名

○第15回 開催日：平成19年3月22日（木）・23日（金）午後5時から7時

形態：研修・発表会

講師：リスクマネジャー小委員会委員

演題：「リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内容：各リスクマネジャー小委員会が年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：324名

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備（有）・無

・その他の改善のための方策の主な内容：

1) 麻薬にて疼痛コントロール中の患者がベッド柵をつかみ自力で起き上がろうとした際、病的骨折が発生した事例について、改善策として全身状態の観察を行うとともに患者周辺を整備することを徹底した。（平成18年4月委員会）

2) コートリル15mgを処方する際、確認不足からコートリル15錠が処方され誤投与した事例について、関係者（医師、看護師、薬剤師）を集めて再発防止検討会を実施した旨の報告があった。なお、再発防止検討会の検討結果については、下記のとおりである。

【再発防止策】

医師・・・指示出し（オーダーリング入力）する際は、必ず処方内容を確認することを徹底する。

看護師・・・薬剤を投与する際は、必ず指示書とオーダーリング控えを確認することを徹底する。

薬剤師・・・処方内容に少しでも疑問点がある場合には、医師に問い合わせることを徹底する。

また、「注意を促すコメント」について、誰が見ても理解できるような具体的な表示に変更する。

（平成18年4月委員会）

3) 酸素チューブと挿管チューブの誤接続により患者が縦隔気腫・両側気胸を起こした事例について、改善策として新形状の酸素チューブ（改善点：①酸素チューブのコネクター部分を挿管チューブと誤接続できない形状に改良した②他方のコネクター部分を酸素流量計に接続しやすい（外れにくい）形状に改良した）を導入した。（平成18年5月委員会）

4) 脳梗塞で入院中の患者様がトイレに行く際、転倒し左肩甲骨を骨折した事例につ

いて、改善策として転倒のリスクが高い患者様には、必ず介助依頼をするよう説明していくとともに、頻回に訪室することを徹底した。（平成18年5月委員会）

5) 胸部レントゲン撮影をオーダーする際、確認不足から腹部レントゲン撮影でオーダーした事例について、改善策として今後指示出し（オーダー）時には、必ず指示内容を確認することを徹底した。（平成18年5月委員会）

6) イソジンガーグル30mlを処方する際、誤ってグリセリン浣腸120mlを調剤した事例について、改善策として、今後調剤する際には必ず薬品名を確認することを徹底した。

(平成18年6月委員会)

- 7) 右鎖骨下静脈より中心静脈ラインを確保する際、ガイドワイヤーを留置したまま終了した事例について、改善策として、今後CVカテーテル挿入を行う際には、手順を再確認することとした。(平成18年7月委員会)
- 8) リタリン錠(第1種向精神薬)を90錠調剤する際、確認不足から誤って120錠調剤した事例について、改善策として、今後調剤時には必ず在庫と調剤数量を確認することを徹底した。(平成18年7月委員会)
- 9) 家族付き添いのもと食事摂取していた患者様が、誤嚥による気道閉塞から意識消失・呼吸停止に至った事例について、改善策として今後患者様が食事を摂取する際には、必ず体位の確認を行なうとともに、家族に対して食事摂取時の留意点について指導することを再確認し周知徹底することとした。(平成18年8月委員会)
- 10) 患者様へ提供した食事の中に異物(針金状の物)が混入していた事例について、改善策として今後患者様に食事を提供する際には、必ず2名以上で異物が混入していないか確認することを徹底した。(平成18年8月委員会)
- 11) 患者様を透析室のベッドから病棟のストレッチャーに移動した際、酸素チューブがベッド柵に引っかかり、気管カニューレが抜去した事例について、今後改善策として患者様を移動する際には、状態を十分に観察することを徹底した。(平成18年9月委員会)
- 12) 2時間で投与すべき血小板輸血を30分で投与した事例について、今後改善策として輸血の指示を出す際には、時間ではなく速度を明記することとした。(平成18年9月委員会)
- 13) 2名の患者様に対して採血を行い検体をスピッツに入れる際、確認不足から誤って検体を取り違えた事例について、今後改善策として検体を採取する際には、必ず患者並びにラベルの確認を行うことを再徹底した。(平成18年10月委員会)
- 14) がスターD錠(10mg)を処方する際、確認不足から誤って1錠の規格を20mgで調剤した事例について、今後改善策として調剤する際には、必ず規格確認を行うことを再徹底した。(平成18年10月委員会)
- 15) 手術伝票に部位(左肩)を記入する際、確認不足から誤って右肩と記入した事例について、改善策として今後手術伝票を記入する際には、確認業務を徹底するとともに、状況が可能であれば患者様にも手術部位を確認していただくことを徹底した。(平成18年11月委員会)
- 16) 患者様に利尿剤を投与する際、確認不足から誤って別の患者様に投与した事例について、改善策として今後投薬を行う際には、必ずベッドサイドで患者確認を行うことを再徹底した。(平成18年11月委員会)
- 17) 臨床研修医が患者様にダイアモックス250mgを投与する際、確認不足から誤ってダイアモックス500mgを投与した事例について、改善策として今後薬剤を投与する場合には、必ず薬剤の種類・投与量・濃度を確認することを徹底した。(平成19年1月委員会)